愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢　一ヶ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行四拾錢
本號全部禁轉載
東京麴町區（牛ヶ淵公園）
發行所　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

愛國婦人會の目的は軍人の遺族及癈兵を救護するにあり

電話番町五百二十番

本號には附錄として評議員公爵夫人二條洽子、山口縣幹事男爵夫人楫取美和子、福岡縣幹事松本磯栄子の肖像を添ふ

社說

◎古風は保存すべし

國には各固有の風俗習慣なるものあり。唯其外形に就て之を觀るときは、隨分可笑しく思はるゝものなきにあらねど、深く其根抵に遡りて之を稽ふるときは、孰れもそれ相當の意味ありて、一概に不合理なりとて排斥すべきものにあらず。人間は理屈一方にて生活せず、理屈の外に感情なるものありて、これが社會生活の原動力とはなるなり、學術は理屈の結晶なれども、風俗は理屈よりは感情の產物なり。一家の眞相は玄關より觀てはよく分らず、裏門より勝手に廻りて、却て本當に知らるゝが如く、一國の文明もたゞ學術の正面のみならず、風俗の裏面を窺はざれば、眞に理會さるべきものにあらず。風俗豈に輕視すべけんや。

風俗は國民精神の發表せらるゝ一の形式なり、符號なり。眞の國民とは即ち此風俗を理會し、此風俗に適應して生活するものをいふ。國民の養成はたゞ學校に於て、敎科書に由りて出來得るものにあらず、また其國の風俗習慣に進入適應せしめざるべからず。

日本は建國古く、歷史傳說に富める國にて、古風の尊重繼承すべき者頗る多し。頃者我最古國なる出雲に遊び、大社、美保神社を始め神話に因みある名所舊蹟を訪ひ、種々の儀式習慣を目にし耳にするに及んで、我國の淵源する所深且遠なるものあるを實地に感得して、一段と我國がゆかしく難有くなれるを覺えたり。

以爲く歷史傳說は長き時間に於て自然と成るものなり、一朝にして作らるべきものにあらず、國民の自尊を生み、自信を高むる倔强のよすがなり。風俗習慣は即ち此歷史傳說を具體的に表はしたるものにして、之を尊重繼承するは、國の特色に隨て國そのものを保存し、繼續する所以なり。風俗習慣は此意義に於て精神上の國寶なりと。庭の苔は一朝にして附かず、道具のさびは直ぐは出來ず、米國は富强なる國にて、金力を以て出來る事ならば、何でもする國なれども、如何に金力でも時間を延べ。歷史を作ることは出來ず、新しき國にはたゞ新しき國だけの歷史ありて、千年二千年の昔の事は云ひ出さうにも云ひ出されず。そこになれば、我國の如きは大したものにて、年代の分らぬ神代より、引續き今に至るまで、國が活き、歷史が活き、風俗が活きて居るとは、誠に世界無比、萬國無類、何と目出度次第にあらずや、庭の苔や、道具のさびは、たゞ外より附きたるもの、尙人は之を珍重す。況んや國民生活の內部より生ひ出でたる國の苔たり、さびたる風俗習慣をや。

物質の文明進みて、世の中は電車汽車の音にて代表され、人間たゞ我利々々の一方にて、一分の餘裕もなく。殺風景千萬なる生活をなす今日、昔の事を擔ぎ出して、古風は保存すべしなど云はゞ、或は舊弊者の分らず屋など嘲る人あらんも、これ決して舊弊論にあらず、破壞の後に來るべき建設時代には當然起るべき正當の要求なり。御維新の大改革は、神社佛閣美術品古樹大木の有形物より、古風舊慣の史的產物に至るまで、何でも古い物は駄目なりとて、破壞し去りたる其損害は、今日の文明を買ふの代價としては、高價にはあらざりしならんも、今より考ふれは、取り返しのつかぬ事をしたるものもあり。即ち其大波瀾の收りたる四十年の今日は、宜しく其破壞されたるものを修繕し保存すべきの時なり。識者夙に玆に觀る所ありて、盡力の効空しからず、大分取り返したるものもあれど、獨り古風舊慣は、さびれ行くの一方にて、折角附き居る庭の苔の剝げ行く如き心地して、誠に飽かず口惜しき次第なり。我等の考へにては、公けの祭禮は勿論、五節句を始め舊來の重なる年中行事は廢れたるは再興して、不相變行ふべし。それには親類知人の交際を親密ならしめ、云ふに云はれぬ面白味あり。殊に子供に取ては、それが何よりの樂みにて、其樂みを味ひ來れる我等には、今の子供が可愛相に思はるゝなり、是れ即ち社會の風情といふものにして、其機微の間に道德風敎を維持し、又人をして國民的ならしむるの効實に大なるものあり。這般の消息を解せざる者は、憐れなる生活をなすの人にして、たゞ殺風景といふの外なし。

京都支部附屬事業經木眞田製造場實況

一國一國に習慣傳來のあるが如く、一家にもまた種々の家例なるものあり、一家は其財產に於て生くるが如く、また家例に於て生くる者なり。否家例こそは一家の特色をなすものといふべけれ。元日に祖先傳來の甲冑を飾り、親讓りの大刀を佩の精神は、何時までも保存し、實行して差支なきものは成るべく實行すべし。舊家は、舊家として貴ぶべく、社會もまた之に向て相當の尊敬を拂はざるべからず、これ舊國には舊國の貫目あり格式あり、よく之を維持して自ら下つて殖民地の乾燥無趣味を摸すべからざると一般なり、要するに我等の持論は一方一方すら世界の趨步に後るゝことを恐れて、日に新たならんことを努むると共に、一方出來上りたるものを守り、古きを慕ふの情なかるべからずといふにあり。英國の如きは此兩方面の妙に調和し平行するの國にして、英國の豪らき所英國人の他國人に立優りてゆかしく品位ある所以は、主として、こゝに存すと信ずるなり。我等は我國一般の婦人に、よくこゝの道理が分りて、家庭及び社會に於ける古風の保存に努められんことを切望するものなり。

然れども社會は變遷するものなれば、古風とて一概に實行すべきにあらず、其進步の妨害となる不都合のものは、如何に古風なりとて行ふべき限りにあらず、又徒らに其形式の奴隷となるべからず、宜しく其精神を味ふべし。こは古風の保存に就ての但書にして、よく注意すべき所のものなり。

◎沈默

先日米國陸軍卿タフト氏及ルーズヴェルト孃一行の來京せられし際或日タフト氏は訪問の我が出征將官の夫人達に向ひて、其良人の消息所在地等を問ひたるに、孰れもたゞ我が良人は滿洲にありときゝぬ、或は韓國に赴ける由など答へて、何を問ふも、其れ以上を語られざりしを見て、同坐の米國貴婦人を顧み、これが米人の婦人ならば、問ふた事は勿論、問はぬ良人の功名談までペラ〳〵喋舌る所なれども、日本の婦人が沈默を守りて、大事の秘密は、何處までも秘密として守らるゝの堅志は一すら感服するの外なし、これ即ち日本の露國に勝つ所以なりとて激賞せられしといふ。之に就ては我等も同じく賞讃の辭を呈せんと欲す。

これたゞの樂屋褒めにあらず、誰が聞いても感心するの外なければなり。秘密として守るの必要なき事をも大事相に隱すときは、彼人は隔意あり、親みがたしなど、惡く云はれても仕方なけれど、大事を秘密にして、沈默を守るは、人は褒めこそすれ、くさすものにあらず。よくその見分けをなして、沈默と打明けを誤らざると、常に此度の如くなるべきなり。

◎精一杯

夏休暇もすでに過ぎて、新たに養ひたる元氣を以て、再び活動を始むべき時は來れり、夏休暇なき軍隊生活を思ひて、男女長幼、朝に野に、家庭に學校に、各其課務を十二分に盡さゞるべからず。然らざれば夏休暇に對する面目何くにある。こは休暇を取れる人に對するの言なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●婦人と海事思想

水交會顧問 海軍大將子爵　伊東祐亨

今回の戰役に於ける海軍の成功は實に目覺ましいものであるが、まだ〳〵是れ丈けの事を以て安んじてはならぬ、更らに大いに海軍の力を養ふて島帝國の安全を圖らねばならぬ、然らば即ち我が海軍をして今日より一層强きものとなすには、如何なる方法を講じたら宜いかと云に、其の方法は幾何もあるであらうが、先づ第一に婦人に海事思想を養成せしむる事が必要であると思ふ、一國の海軍は決して一代で完成せらるゝものでない、彼のネルソンも云つた如く、子の代孫の代までも繼續して始めて全きを得るのである、夫れには母たる者に海事思想がなくてはならぬ、秋夜の御伽噺にも、乳を呑ませる間にも、海に關した話をして海の智識を授くるやうにせねばならぬ、斯くして子は子に漸々と海事の思想を發達せしめて、こゝに全き海軍の實力を見るに至るのである、元來日本の婦人は陸上の事でさへ餘り多くは知らぬ勝であるが、海の事と來ると更らに殆ど盲目同樣であると云つても宜しい、斯くの如き有樣であつたならば、今後幾年を經るとも吾が海軍は今日より有力なるものとはならぬのである、故に今後は老となく幼となく、總ての婦人が海事思想を養成されん事を深く望むて止まぬのである。今日の女學生などには昔と違つてなかなか勇氣あるものが多く出來て來て、遠足もすれば富士登山などもする、是れは誠に結構な賴母しい事であるが、唯だ陸上ばかりでなく一歩進んで短艇の競技もなし、輕舸を艤して遊海を巡遊もなし、夏期休業等の如き身に閑のある時は、避暑をするにも成る可く山中よりは海濱を擇び、船で旅行するやうな所へ行く風を奬勵したい、斯くしたならば其の得る所蓋し尠なくないことであらうと思ふ。

◎湘南十分談片

●會長公爵夫人岩倉久子氏　私は毎年夏になると葉山の別莊に來て靜養致しますが此期間丈けが私の身に取つて一番安樂な時であります平常はなか〳〵多忙でありまして家庭に於ける私の役目は大變に多いのであります子供の教育を擔任するは勿論家族一切の衣服の調進方は私が引受けて買入れから仕立までの監督を致しますし亦た家族に供する食物は最も注意を加へねばなりませんから料理の指揮決定も私が致して居ります聞きます所に依ると英國の皇后陛下は自ら料理場に出て指揮されるとのことでありますから私共が斯如き事を致すのは當然のことであると思ひます唯だ金錢の出納丈けは別に掛りの者が居つて致して居りますが何に致しても家族が多く親族が澤山なものですから内外の事務がなか〳〵に多端であります

●理事前公爵夫人毛利安子氏　私は此鎌倉に參つて居りましても日夜講和談判の模樣が氣に懸りまして本邸より時々刻々報知をさして居りますが談判が中々困難の樣子であります我國では和戰兩樣の準備があるとの事でありますから談判が若し調はねとても決して失望するには及ばぬ話しでありますが出來得る限りは早く戰ひの止む事を希望に堪へませぬ戰ひの爲に幾多憐れなる人が出來る事が悲いのみでなく教育上の設備も届き兼て居ります婦人教育會の方でも社會教育の爲に公會堂を設立する筈でありましたが此戰爭の爲に扣へて居ります戰爭が止みましたならば一般に教育上の施設を十分にせねばならぬ事と思ひます

●評議員公爵夫人二條洽子氏　私は病氣勝であります爲に評議員會にも多く不參勝であります殊に澤山に居らるゝ評議員の中でありますから私一人が出なくても事が濟むであらうと考へて居りましたが併し總ての人が互に誰かが出るであらうと云ふのて譲り合ふて居た日には會議も成り立たぬ譯でありますから秋にでもなりましたらば勵めて私も出席いたす積りであります突然來訪されては十分の意見も陳べる事が出來ませんが近日何か認めて「愛國婦人」に掲げる事に致しませう

●評議員海軍大將夫人伊東美津子氏　私は夏になりますと此葉山の別莊に來て居りますが別莊と申しても實は假小屋を見るやうな建物であります然し景色はなか〳〵に佳いのであります三方は海に沿ふて居て一方は岡になつて居ります障子を開けると富士の山は海を隔てゝ座敷の眞中に落込むやうで江の島は玄關先に見へて居りますし玄關と島との間を白帆が絶えず往來して居りますなどは宛然繪の中に入つて居るやうで御座います周圍に大きな岩がありますが常に白馬の躍るが如き波が是れに打附つて碎ける其の壯觀美觀は是れ亦た譬ふるにものなしであります夜は枕に浪の音通ふて何んとも云へぬ愉快な心持が致します朝日は離宮の岡から登つて富士の裾野に沒ります月夜の晩は種々の蟲が鳴きつれて物淋しい時もあります兎に角別莊とは云へ此所は賤が苫屋でありますが今年はこの賤の家に幸ありまして皇后陛下の行啓を辱う致しました私は日課として海水に浴したりお魚釣を見に行たり子供を對手に盛んに運動を致して居ります

●評議員海軍大將夫人東郷鐵子氏　過日タフト氏歡迎の節は實に困ッちまいました平常日本の婦人方とも餘りお交際を致しませぬ私が有名な交際上手な亞米利加婦人にお出會ひ申したのですから夫れに言葉が通じませんので此方の意思を充分に通ずる事が出來ませんで而巳ならず御挨拶さへ充分に致し兼ねた程であります彼地の方は日本の方と違つて擧動で以て如何にも嬉しさうな有樣を表はす事が巧みであります是れからの日本婦人は漸々に斯樣な英米國の婦人を迎ふるとが頻繁になつて參るであらうと思ひますが其時に唯だ默言つて大人しくして居る許りが上品と云ふ譯でありませんから言葉が通じませぬまでも天眞爛熳にして熱心に迎ゆる事を擧動になりと表はす工風を皆さんと共に講究したいものと思つて居ります

●評議員海軍少將夫人小田松子氏　我が神奈川縣内に住む一兵士が二百三高地攻擊の際負傷して遂に右腕を切斷して廢兵となりましたが郷里に歸つて來ても人並ならぬ身で勞働も出來ず親の厄介となるのも心苦しく我身の果敢なさに耐へ兼て死を決し海に投じたところが幸に助けられたと云ふ事が新聞に載つて居りましたが新聞などは事實に誤りが多くありますから事實の正否は知れませんが殊に今日の場合斯樣の人を郷黨近隣の人が捨て置くやうな事はしまいと信じますが斯樣なる事があるについても我が會に於ける廢兵院の設立は一日も速に進渉せん事を望んで居ります政府が大計畫でする程の必要な事でありますまいから小さくとも我會で設立して右の如き報知のあつた時は速にこれを收容する事に勤められん事を希望します

●評議員相州鎌倉郡佐竹音次郎氏　日本の社會に於て一の缺けたる事は婚姻制度の缺陷より生じたる不幸な婦人を救ふ途の無い事であります離婚が容易に出來る我國に於て最も氣の毒なるは離婚されたる婦人であります夫婦の交情は變らずとも一家の不折合の爲めに離婚され實家に歸らんとすれば實家の方では歸るを拒み身を淵に投げんとするも妊めるあつて果す事が出來ない死る事も生る事も出來なくて進退維れ谷まると云ふ婦人もある又た餘り墮落せんまでも良家の婦女で誤つて妊める時なぞは家庭では困められ社會からは爪彈に遇ひ子を生む處さへないと云ふものもある又た婚姻する意思のない婦人が强いて結婚せしめられ離婚を請求する事は出來ず夫れかと云つて同居すれば虐待を受ける等の婦人もある是等の人を救ふ事は人類の天職であると考へますから私は是等の弱者に對して同情を表し十數年間これが救濟に力めて居りますが今日までに各々其處を得たるものが拾參人程あります又別に乳兒を預る事を致して居ります是れは種々の事情よりして母が乳を與へる事の出來ない不幸なる子を預つて三歳根性を養なふ事を力めて居ります今日まで四十一人養ひましたが段々經驗を經るに從ふて預ける人が增加し唯今では二十人餘りも居ります私は夫婦の中にこれ等の多くの子を生んだと思ふて我子と等しく愛育致して居ります

●戰地へ會より扇子贈りし時
櫻の繪ありしかば

會長 公爵夫人　岩倉久子

武夫の心に似たる櫻花
散るを惜まぬ人なかりけり

○初秋戰地を思ふ

理事侯爵夫人　鍋島榮子

殘る暑さは、軒淺からぬ家に在りてだに堪へがたき折柄、まづおもひやらるゝは戰地の樣にこそ、君國の御爲とはいひながら、開戰以來、ならぬ野に山に臥起して、雨風をしのぎ、饑渴をしのび、鐵もとけむ夏の日、月も氷らむ冬の夜の別ちなく、比類なき大敵と連戰連勝し、皇國の光りを宇内に輝かし給ふ皇軍人の、限りなき苦心と、限りなき功績とに對しては、五千萬の同胞と共に感謝して、其眞情の萬分一をあらはさむ詞もなし。數ならぬおのれも、暑さを閑地に避けん心地もせず、唯、還り來まさむ戰傷將士の方々を、いたはり慰むるに身をゆだねて、一日もはやく凱旋あらん日を、天地の神にいのりつゝ、

みいくさのにはをもへはわれひとり
あつささむさをいかていとはむ

手おひたるますらをみれはたへかたき
秋のあつさもわすれはてけり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

わかれ

武田櫻桃

雪崩を打つて開札口を出た、下駄、草鞋、草履、靴。引摺るやうな、蹴返すやうな、踏込むやうな音を立てゝ、それが悉く列車の客室へ納まつた後、發車までに約十分もあらうと云ふので、郵便物さへ未だ積込まれぬ。

赤毛布が一組、書生二人、前なるは周章しく、後なるは沈着拂つて三等客車へ乘込んだ後からは、水際立つて美くしい令夫人の、髪は花月巻に、お年も未だ二十歳ばかり、明石の單衣に絽の御夏帶、金鎖緩く御胸の傍に垂れて、供の者に手荷物を、赤帽にも一個二個。見送りの一群に圍まれて、プラットホームを此方へ見えたが、驛夫は早く一等車の扉の摑みに手を懸けた。

「萬望此方へ!」

家扶とも見える斑白の小倉袴と、紘とも見える十六七の赤襟とが令夫人の御手を把り參らせて客車の中へ、後からは更にパナマ、鼠の中折、袴、洋服の二三人どゝや〳〵と闖入つて、網の上へ御日傘、手鞄は御膝元に、車窓の塵まで悉く拂ひ參らせて、

「いや、非常に蒸します事で」

と斑白は御氣色を覗ふなり。

「御機嫌よろしう」

「彼方へお越しになりましたら、子爵に宜敷うお傳へを願ひまする」

「隨分お身體をお厭ひ遊ばして」

「いづれまた御面會の期も ござりませうて」

若々しいのやら、皺嗄たのやら、太いのやら、細いのやらが、令夫人へ御別れの、がや〳〵と犇き合ふのであつた、令夫人は車窓へ御片肱を懸けさせられて、一々の御挨拶、供へまで慇懃の御言葉をかけさせられたが、

と、何者をや認め給ひけん、「おう」とばかり御眼を睜り給ふ。

「其方も見送りに來ておくれかえ、まア、用の多い身體をね」

衆目一時に注ぐところ、薄汚れた單衣に櫛巻のそぼろな若女房が、これも飛白まで讀まれぬまで洗ひざらした筒袖の三歳ばかりになるを帶括りに、冷飯草履を突懸けて、きよとんと立つて居るのであつた。

「お前まで來ておくれとは思ひませんでした、それでもまアよく來られたことね」

近うとばかり眼に云はせて待ち給へば、女はおづ〳〵と進みよつた。黒紋付の肥つたのが身を避けると、

「奥様!」

と女房は御手に縋るまで、車窓近く摺寄つた。

「萬事御無事て……」

「あ、難有う、お前もね、御亭主が戰地から凱旋するまでは、甚麼な事があつても決して無分別を出しちやア不可ませんよ、その兒が可哀想とお思ひなら、え、よござんすか、出來るだけの辛抱をしないとね」

夫が出征の留守中を舅姑に辛く當たられて、今は命をもと、ある夜の月に家を拔出し、あはや御濠の泡と消えんとした時、救はれしは此令夫人、夫の家は棒手振の八百屋ながら、其後子爵家の出入を許され、深い惠みに浴して居た、其令夫人に今日の別れ!

「はい」

とばかり鼻白いて、

「當分はもうお目にかゝる事が出來ないのでございませうか!」

「まア二三年は東京へ歸れまいと思ふがね、なアに期さへあればまた出て來るわね、お前も身體を大切にして、煩はないやうに、くれ〳〵も無分別はね」

女房ははら〳〵と落す涙。見送りの凡ては靜まつて、扇のはためきのみ繁く聞える。

「坊、お前を可愛がつて下すつた奥様はもうお立ちになるんだよ、能くお別れを申上げな!」

身を横にぐいッと捻つて脊の兒を揺上た。色の白い、ふッくりとした容貌のが、ぱちりと眼を睜つて、令夫人の顔を仰いだが、

「母ちやん、坊も行きたいの!」

「おう、此の妾と來やうッてかえ、ま、可愛い」

令夫人は衛と御手を車窓の外へ、兒の手を把つて振るやうに、

「眞個に連れて行きたく思ふよ」

鈴は烈しく鳴つて、車掌はまた人を拂ふのであつた。

「危ない、危ない、危ない!」

聲の下から、

「御機嫌よう」

「お氣をおつけ遊ばして」

身を斜めに小足を揚げて、車掌は右手を翳したが、左手に笛、ボーッと喧ましく應じた汽車は靜かに搖ぎ出すのであつた。

「奥様!」

驅寄らうとした女房の足下近く、散落つた光る物。

「それは坊に上げるのだよ」

令夫人の御聲は轢轆の響きに消された。

煙は低く地を匍ふて!

(完)

◎戰國の勇婦(善祐尼)

須藤求馬

昔室町の末つかた、伯々下部伯耆守と云ふ者の女、細川澄之に仕へて甚寵あり、女子一人を生む、然るに澄之は永正四年八月細川澄元に攻られて、洛西嵐山の游初軒にて自殺し、伯耆守は澄之を介錯して後、從士百七十人と共に切腹す、時に此女子母と共に往生院に隱れ居たりけるが、丹波は澄之の分國なり、内藤波多野を頼ばやと志て、愛宕山の月輪へかゝり落行ければ、三好希雲の從士追かけ、其容色の勝れたるを見て此を犯さんとす、此女子まづ母を先へ落行かせ、自から逃れじと覺悟し、坂路の狹き岩の側に立て其士を待つけ、汝は我を見知れりや、我は汝を知れりと云ふ、其士答て云く、知らず、唯此山越をするを以て、世を避憚る人なるを知り、伴從のなきにて落人なるを知る、抑々我をば誰とか見知ると云ふ、女子笑て曰く、世を避憚るにあらねど、本道は兵士滿々たれば行に堪へず、伴從は元來召使ふべき分限なければ有るべき理なし、汝が推量一も中らず、汝は四國の叛臣三好希雲の從士なり、希雲天に悖り人に逆ふ、滅亡遠きにあらず、汝が運命も今盡んとす、何ぞはかなく雲雨の変を嘉ふやと云ひつゝ、路傍の怪岩高さ四五尺許なるを崖下に突落し、汝をも如期すべきやと云ふ、其士頗此女子非常の人なるを知りて、心に疑ふと雖も、又止むべきにあらねば、猶進んて遁らんとす、時に此女子小石を捷く取つて其士の眉間を狙つて投ず、謬まらず鼻梁に中り、衂夥しく流れければ俯になりて是を掩ふ處を、又石を投じて項にあつ、項やぶれて眩み地に倒る、然して丹波に至り、内藤備前守貞正は母方の叔父なりければ、此家に入りて時を待つ、一日人來て月輪の坂路に壯士一人死し居たり、何人の殺せしや知らずと語る、此女子其男の物色を問へば、我礫に中りて死たるならむと思へども、謂はざれば知る人なし、後此女子神尾寺に入りて尼となり、善祐と云ふ、近畿の靈地を巡拜するを以て勤となせり、修行の次月輪に至り、此事を思出し、順逆二緣邪正一如の感を興し、遽に去るに忍びず、此邊にやと坂路を彷徨すれば、一基の卒都婆あり、怪みて之れを見れば、過去精靈某の文あり、月輪寺に入て問ひ訊せは、彼の礫に當りて死したる士と思はる、委細に推究れば、老僧一人語りて曰く、我は元來四國の者にして此精靈と共に三好希雲に從ひて細川澄之を殺して後、其女中の落行く跡を慕ひ、これを犯さんとせしに、却て其女の爲に礫に打れて此精靈は死したり、因果輪廻の恐しさに、我は出家して諸國を修行し、數年の後こゝに來り、此人の爲に卒都婆を造立し、此二三月が間此寺に住持なりと涙を流しつゝ語る、此尼これを聞て知らず顏に過んも情なしと、我こそ其時の女なれと云いて、月輪寺の上人に謝ふて、菩提の爲に、一日經書て供養したりと南無。

◎酒匂の別荘にてよめる

評議員　中山幸子

あた浪はみなうちしつみ海原に
しつかにのほる秋の夜の月

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衛生小説

脚氣

糸左近

「先日御約束申した通り、今日は脚氣のお話を致しますが、それに就きましては、色々と込入つた學理を悉皆抜にして、直樣豫防談に移り、旁々治療法も一寸述べませう。」

斯う言つてドクトルは今點てゝ出された一椀の薄茶に喉を濕しながら、

「奥樣、何ぜかと申すに、其の病原が仲々六かしいので、斯道の學者達も、或は米食の故だとか、或は青魚の中毒だとか、甲論乙駁してゐますが、未に確と分らぬのでありますからな。」

「成程さう被仰れば、良人は毎年夏向になりますと、未だ發らぬ前から麵包・牛乳・小豆などの外、雞卵、牛肉を少し食べます位て、御飯やお魚は少しも頂きませぬが、矢張水腫と痲痺は執拗くも十月末頃までは去りませぬから、餘儀無く轉地致さねばならぬやうな次第て御座います。」

「失禮ながらそれが不可ませぬ、能々考へて御覧じませ、抑々我國は四方渺々の海原に圍まれてゐる細長い島國で、最も幅の廣い處とても僅かに五六十里、其中に山峙ち河流れ、其流域には田畑到る處に連り、其故魚肉米穀は滿ち充ちてゐて神武の昔から悠々三千年の間、取つて以て之を食ひ、この大和魂を養つてゐるのてあります、特に其米に至つては、萬國に類無き良質の物て、其消化の善き事、其の滋養の多き事は實に天の賜物と申さねばなりませぬ、然るに之を癈し、兒牛の飲むべき牛乳を取上げたり、大陸なる米獨人の眞似をして麵包獸肉に換るとは何たる滑稽てせう、此儘にして進めば將來に角の生えた碧い眼の牛人が出來て、モーと叫ぶかも知れませんて、ハヽヽ。」

「さう被仰れど脚氣は西洋人には無くて我國人に多くあるのは何ういふ譯て御座いませう。」

「其處です、彼等は天の法則に從つて、大陸に適つた食物を取り、牛乳などは或る場合にのみ用ゐ、容易に其の生活法を換へませぬ、のみならず常に能く運動して身體の抵抗力を作ります、之に引換へ我國人は何の考も無く生活法を換るばかりで無く、抵抗力を作る思想に乏しく、それが爲脚氣に限らず凡ての傳染病などにも侵され易いのであります、論より證據、脚氣は勞働者が坐業者に轉じたり、坐業者が急に過勞をしたり、其他産前産後の婦人、新兵及び不規則な生活即ち不養生を敢てなす學生などに多いぢやありませぬか。」

「して夏に多くある譯は、」

「それア其筈てす春暖の快い氣候も過ぎ、厭な梅雨の時節も去る頃は、急に暑くなります、是時に當つて抵抗力を作つて無き人や、不規則な生活をする人は、この氣候に負けて脚氣のみて無く凡ての病に罹り易いのてす、況んや此時から天の理に背いて生活法に換るに於ては恰かも脚氣を待受るやうな次第であります、此際尚更攝生を守り、余が所謂豫防十一則を實行致されたならば、恐らく脚氣も取り附く島が無いてあらうと、確く信じてゐます。」

「その十一則を何うぞ……」

この時夫人は筆を取つて左の如く一點書にしたのである。(一)朝は五時前に起き三十分間乃至一時間の散歩をする事。(二)すべて飲食物は幾分を減らすやうにする事。(三)脂肪の食物は極めて少量にする事。(四)間食を嚴禁する事。(五)夜は九時に寢る事。(六)腦力を過度に費さぬやうにする事。(七)窮窟ならぬシャツ及びズボンを着けて寢る事。(八)生水は必ず飲まぬ事。(九)家の内外を清潔にする事。(十)空氣の流通を善くすること。(十一)光線を十分に入れて濕氣の無いやうに注意する事。

「返す〲も其の十一則を少しも讓步してはなりませぬ、頑強なる敵は弱身に附込みますからな。」

言ひ終つて、一椀の薄茶を啜つた

＊　＊　＊　＊　＊

翌れば明治三十九年の夏は土用の二郎、大地も火焰を吐かんずる日に、頻りと轉地の愚を嘲つてゐる夫婦があつた。實に樂もしい我黨の人てある。(終)

◎子供と暗黒

久津見蕨村

▲子供が少し知覺神系の發達してまゐります頃、大抵は生後七八月から二歳の頃になりますと、殊に暗黒所を厭がるやうになります、非常に體格が能く生れた子供て物の音などには少しもピク付かないものでも、どうも暗黒を好みません。其甚だしいのになりますと、非常に泣くのがあります。

▲それは決して暗所に、子供の厭がるものがある譯てはありません。子供が燈火を見ましてフウ〲と云ひまして悦びますのとは反對て、唯暗黒な陰欝なのが自然に子供に不快の感を與へるからてありまして、昔の人が申しました樣に、暗所に魔がをるのでも何んでもありません。

▲ですから暗所を恐れまして、小し大きくなりましても、兎角暗所に行くのを厭かるやうな臆病な子供に育てまいとするには、其暗黒や陰欝を何んとも思はない強い心を養はなければなりません。夫れには大人からして暗所を恐れないやうにしなければならぬのです。

▲母や姉が暗い座敷や庭へ行くのを怖がつて、一々燈火を點けて行くやうてはなりません。子供は先づ暗所を厭に感じてをる所ですもの、之を見ましては厭と思ふ感じの上に怖いと謂ふ情を起します。此感情が長く續きますと習慣となりまして遂には大きな身體をしてをりまして夜道や暗室て震へるやうになります。

▲これからの日本、世界の強國中に加はつた日本の國民がそんなことでは成りません。夜道であらうが暗黒であらうが恐怖と謂ふことを知らないで進む最も強い意志を持つた人民とならねばなりません乃ち子供の内から暗所を恐れると謂ふ心を取去つて仕舞はなければならぬのです。暗い廊下を抱いて行くと、ピイ〲泣き立てるやうな弱虫の子供を鍛へ直さなければならぬのです。

▲それには暗黒にも習れさせる。夜も暗い室へ獨りで寢ませる時がある。折々は夜道も連れて歩くやうにするが宜いと想ひます。さうすると初めは泣きもしませうが、習れば何んともなくなります。暗黒でも平氣て笑つてをるやうになります。斯うなれば性根が強くなります。大人となつた上て、幾分か其膽氣を大にする補足になります。

▲所が家庭に由ると、子供を譴るのに暗黒を怖い所として、そこに妖怪がゐるとか、幽靈が出るとか、狸や狐がゐるとか謂つて子供を恐喝のがあります。それは實に宜しくありません。第一に子供を弱虫泣虫にして、そして將來の國民を膽力なきものたらしめやうとするに當ります。ですから私は暗黒でも少しも恐れませんで、ドン〲飛び出して行くやうな活潑な子供が我國民の實であると信じてをります。

◎島津公爵家の子供部屋

(鎌倉別莊にて加藤女史の談話)

◎一人一室　お子供方は男女合して四人御出てゝあります皆未だ御幼少て居らしやいますが一人に一づゝの部屋が與へられて在ります

◎保姆　幼少の間は男女に拘らず總て婦人の手て養育する御考へと見へましてお一人に二人づゝの保姆が附いて居ります此の保姆は家庭教師と申すよりは寧ろ身體の御壯健を計る爲めに御付けになつて居ることゝ伺ひます

◎顧問の醫師　假令ひ御病氣はなくとも顧問の醫師は毎日御本邸を見舞はれ子供部屋を必ず伺はれ脈を採られねまでも御樣子を見舞はれる事になつて居ります

◎運動遊技　幼少の間は體育に最も重きを置かれまして運動遊技の器械は十分に供へてありまして朝なぞは御本邸では御近所なる山王社の森に運動を致されます夏は此別莊に御出てになつて海水浴を致されます

◎衣服　華美なものよりは質素にして實用的なものを御召になります御男子の方は簡袖に作り運動するに便利にしてあります冬なぞは木綿の下着をよく御召になります

◎食事　御年齡上の御二人は多く公爵御夫婦と同一の食卓に着かれますが御跡の方は御幼少てあり食事の時間も食物も幾りますから御名々の御部屋て召上ります

◎花と音樂　公爵さまが花が御好きでありますから御庭に四季とも澤山の花が咲いて居りまして花の中に御育ちになるので幼少の頃から花に對する御思想も深く花を大切に致されます又音樂は非常に御好のやうで私の主として御守り致す二歳の方なぞは音樂に餘程耳を傾けられ何か疑問があるかの如く見受けられます

◎獨立的と平民的　可成人の手を借らないで自分でなさるゝと云ふ事に氣を付けて居りまして且つ昔しと異なつて言葉遣ひ等も成るべく平民的になさるゝやう致して居ります

◎泰西婦女訓

◉人の一生は恰も海濱に遊びて貝殻を拾ふ小兒の如し眞理の海は未だ發見されず

◉人は常に逆卷く波に漂ふ小舟の如く社會の波に打たれつゝ之に抵抗して進歩す

◉人の本領は活動なり其身體は活動の爲に組立られ精神の構造も亦斯の如きのみ

◉幼兒の精神は恰も一枚の白紙の如し其境遇の如何により其習慣を紙上に印刷す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎評議員會日取　九月中の評議員會

九月六日（臨時會第一水曜日午後二時）

九月二十七日（第四水曜日午後二時）

◎奥村刀自一行　京城を經て仁川に回り（去月廿八日）漸次各居留地遊説中にして至つて壯健なり其歸朝の日は未定なるも本月十日過ぎならんかと思はる刀自一行に對して近頃「日本」新聞大阪毎日新聞等に於て中傷的記事を記載して大山元帥から「貴女方が來る所でない」と叱り歸されたかの如く記載せるも云ふまでもなく戰地に於て寄附金を募集する等の事を爲さず況んや非常な厚遇を受け態々奉天まで入るを許され元帥よりは感謝の辭を受けたる事前號記載の如くにして又道理上よりも元帥がかゝる言葉を陳べらるゝ筈なく該新聞は全く中傷的に記載したるものと認むるの外なし會員中該記事に誤られざるやう特に付記して注意を促す

◎支那人一万圓寄附　奥村刀自安東縣へ遊説の際之を機會として同地に在住する王化成氏より一万圓寄附ありたるにより會長より左の謝狀を送りたり

謹啓未得拜芝候處益々御多祥御送光相成奉賀候陳ば今回軍政官大原武慶氏及兵站司令官齊藤季治郎氏の紹介を以て軍用手票銀壹万圓本會へ御寄贈被下正に領收致候右は格段の御篤志に付本會總裁殿下より賞狀幷特別有功章別便を以て贈進せられ候間然機御了知希上候隨て本會事業の儀は一層其奏効を期し御篤志に負かさる樣可致心得に御座候先は感謝旁聊微衷を表し候爲め呈寸書候時下殘暑折角御自愛被成度不堪祈念候敬具

月　日　　會長公爵夫人岩倉久子

◎寄附金披露　其後拾圓以上の寄附金者左の如し

金五千貳百參拾六圓　米國シヤートル委員部取扱　上半年分

此内拾圓以上寄附者左の如し

金百七拾四圓余　シヤートル愛國婦人會有志

金百壹圓余　シヤートル日本人會長服部綾雄

金九拾壹圓余　在米國日本人イスヤキマ同志會

金五拾圓余宛
米國シヤートル　ジヨン、ピー、アゲン
仝　シー、エチ、リリー
仝　アルベルト、ハンセン
仝　テー、ゼー、ツルセン
仝　ロメイ、シヨプスト夫人
仝　チヤールス、エチ、ブラツク
仝　ジヨン、エン、ジヤクソン夫人
仝　モーセス、ブラガー夫人
仝　ジユリアン、ダブリユー
仝　フリードランダー夫人
在米國　杉浦末松
仝　堀田八九
仝　守田勝太郎
仝　大貫ヘレンス
仝　岡澤海田時計商會
仝　矢島喜代松
仝　藤原友次郎
仝　金谷謹松
仝　山本龜助

金參拾圓余宛
米國シヤートル　ゼー、ダブリユー、カール

金貳拾五圓余宛
在米國　藤原友二郎
仝　金谷謹松

金貳拾圓余宛
在米國　米今折造
在米清國人　チンリンク
米國人　ジー、チー、ゲイ
在米國　小川安一
仝　鈴野豐次郎
仝　菊地雄三郎
仝　露木清吉
仝　平塚長次
仝　玉和木要五郎

金拾六圓余
仝　高崎廣吉

金拾五圓余宛
在米國　太田近治
仝　緒方新九郎
仝　村上清太郎
仝　水原彦松
仝　河内唯市
仝　加藤善助
仝　増田保太郎
仝　高橋佐市
仝　山田時之助
仝　藤田代太郎
仝　寺尾宮吉
仝　道平政一
仝　山本次之助

金拾參圓余
藤田秋太郎

金拾貳圓余宛
在米國　井上金二郎
仝　藤川常三郎
仝　近間寒一
仝　増田盛藏
仝　仲幸次郎
仝　二宮龜次郎
仝　緒方新三郎
仝　福田直一郎
仝　石井嘉市

金拾圓余宛
米國人　デー、エー、ダツフキー
仝　ジー、エム、シヨー
仝　ヴレーン、デーン夫人
米國人　エフ、ジー、ノーエス
仝　チリンセアリカー會社
仝　デー、エチ、ジヨナス
仝　セー、ダブリユー、プラチン
仝　フキリツプ、シユマン
仝　ロタイ、エス、ドートリー
仝　ジヨージ、トムソン
仝　アベ、スプリング
仝　ウヰリヤムウエーチトル
仝　コンドン夫人
在米國　岩永吉次
在米國　沖熊市
仝　川端藤松
仝　遠藤寅之助
仝　大下茂市
仝　青山直二郎
仝　前川寅次郎
仝　河原源吉
仝　船津代十郎
仝　吉川正章
仝　玉井爲助
在米國　田中德造
仝　石川良毅
仝　安福文太郎
仝　友田穏藏
仝　田中來助
仝　尾上鶴吉
仝　土井角次
仝　村井留造
仝　橋本仙太郎
仝　水原岩吉
仝　三宅次郎
仝　梅本久吉
仝　下家峯藏
仝　西田春吉
在米國　足立鉾吉
在米國　古市惣五郎
仝　林普三郎
仝　土平淺次郎
仝　佐久間義雄
仝　宮本留藏
仝　中村才八
仝　渡邊吉次郎
仝　福田芳太郎
仝　杉山豐吉
在米國　小林久太郎
仝　金子留五郎
仝　河四兵平
米國人　エチ、タルナー
在米國　平池唯平
仝　岡田堅太郎
仝　野口眞平
仝　吉村逸二
仝　中田山吉
仝　小樋忠吉
仝　久世伊八
仝　久保田榮三郎
仝　樫本熊太郎
仝　榎崎穣雄
仝　犬養三郎
仝　渡邊逸三
仝　福島政次郎
仝　萬川彰三
仝　和田隆次郎
仝　島村專助
仝　森澤房一
仝　松本政吉
仝　常岡只吉
仝　小吹彦太郎
仝　大垣實三郎
仝　島津幸吉
仝　岡本德松
仝　硲惣太郎
仝　三井梅吉
仝　橋本雅次郎
仝　和田善兵衛
仝　吉田喜一
米國　パルチ兄弟商會
在米國　秋山代吉
仝　東村常吉
仝　吉崎龜之助
仝　濱岡補助
仝　松田籌勝
仝　幸野幸吉
仝　内崎來助
仝　河山亥之吉
仝　遠理太郎
仝　脇利忠
仝　林重次郎
仝　麻谷信一
仝　中山拌藏
仝　野上丈七
仝　矢吹松美
仝　實久次太郎
仝　藤川正己
仝　岩見三代次郎
仝　西田稔
仝　堀田貫
仝　藤井長次郎
仝　永山兎一
仝　松中玉吉
仝　河野幸藏
仝　寺岡宇之助
仝　濱田淺吉
仝　栗栖百三郎
仝　瀧本德太
仝　木村龜城
仝　岡秀次郎
仝　北庄三郎
仝　清水鐵次郎
米國人　シー・ダブルユー
仝　チヤンバレン
米國　山路羆
仝　秋山清太郎
仝　門前米永
在米清國人　朱令
在米國　福原豐松
仝　岡田初太郎
仝　小森庄次郎
仝　栗山健三
仝　小橋清三郎
仝　龜岡熊次郎
仝　今中房治郎
仝　二宮萬三郎
仝　川端藤松
仝　上田利平治
仝　小野治
米國アラスか　一米國人

◎各地支部狀況

◎大分支部　同支部にては左の如く活動しつゝありと云ふ

一、支部所在地に在ては支部長支部副長各評議員二名を一組とし各分擔區域を定め隔日一回慰問せり其以外の町村は各郡幹事部役員又は家遺族在住町村の會員支部同樣之を慰問せり

一、出征軍人慰撫の目的を以て扇子の募集を爲し五月卅日を以て締切を爲す應募扇子數六万五千七百本此人員四万千百九拾四人を得出征軍第十二師團及同佐世保鎭守府所屬艦隊へ寄贈したり

一、犒軍として地方演習行軍の際發賞を寄贈せり

亦た南海部郡幹事部にては第十二師團小倉傷病兵士に對し慰藉する爲め會員及び有志者に於てハンカムーフを募集せしに早速に壹千百九拾枚（此價格五拾九圓五拾錢）の報を得たるを以て去月中寄贈の手續を了したり

◎長崎支部　同支部西彼杵郡幹事部に於ては各村に於て委員熱心に會員募集を勉めつゝあるが尚其上に去月中は幹事長松永勢以子瀨戸、雪浦、神浦、黑崎、三重の各村へ出張し寺院村役場等に有志者を集合せしめて遺家族及び癈兵救護に關する詳細なる談話をなしたるに大に感動を與へ入會を申込むもの頗る多き中に神浦黑崎の二村最も成績良好なりと云へり

◎島根支部　同支部副長岡崎島子同幹事森脇榮子二氏は去月二十三日出發支部を代表して廣島豫備病院及び舞鶴海軍病院を歷訪し傷病軍人を慰問したり、又た米子幹事部にては去月二十二日全地高等小學校に於て發會式を擧行し支部長代理幷に顧問井上西伯郡長等臨席し井上氏の開會の辭に續きて寺田顧問の演説あり終つて午飯及び茶菓の饗應あり尚ほ餘興には講談音樂等あり來會者百五十餘名頗る盛會なりき

◎岡山支部　同支部内赤磐郡都美村にては全村長の發企にて愛國婦人會員發會式を去月二十三日全地尋常小學校内に於て開催せしが全郡幹事部長並河貞子代理として壽末郡書記列席し式後役員の撰擧をなして散會したるが同村の會員は目下七百餘名ありて猶ほ增加の模樣なりと、又久米郡倭文中村に於ても同月二十日總會を開催し諸般の會務を議了の後茶菓の饗應ありて散會せり

◎香川支部　同支部内綾歌郡端岡村は郡内第一の大村なるも從來會員僅少なりしを以て先般幹事部長稻葉松子同幹事青木富貴子の兩氏同村へ出張し大に勸誘に力めたる結果忽ち百餘名の加盟者を得たるより去月二十四日同地國分寺に於て發會式を擧行したるが約三百名以上の集會者あり即他に三拾名の加入者あり幹事長其他の演説講話ありたる後會員一同に茶菓の饗應をなして散會したるが餘興には蓄音器劍舞等ありて頗る盛會なりき

◎京都支部　同支部にては軍人遺家族中の貧困者に對し經業眞田の製造法を授けつゝあることは既報の如くなるが右製品は大阪なる輸出商鈴木某の手を經て神戸の商館に賣込み居れるが需用頗る多く其の供給に應じ切れざる程なりと尚ほ同事業の景況は本紙第一回の寫眞版に於て見る可し

◎遺族扶助料に就て　各地支部より本會へ被救護者調査の報告に依れば軍人遺族中戰死病歿等の當時より今日に至る數ケ月を經るも扶助料の下賜なきもの頗る多きが必覺右は其の手續を怠りたるの結果に基くものならん元來扶助料は遺族より請求の手續をせざる内は一切下賜あらざる性質のものにして其の手續を後るれば後るゝほど後廻はしとなるを免かれざれば此際迅速に其手續を爲され度し其方法は當該市町村役場に就て聞合ら可く市町村長亦是れに對して速かに下賜あるやう便宜の取扱ひありたきものなり

◎韓國遊説日誌（一）（奥村五百子刀自一行）

◎八月一日　滿洲軍慰問を終へて是れより韓國遊説の途に上らんとす、午前九時大連兵站部司令部幷に民政部に至りて告別し午後二時大湖丸に乘じて出發す

◎八月二日　船進行して午後五時大東溝に着し遂陽丸に乘替へて安東縣に向ひしが鴨緑江に入りてより航路に故障を生じ危險云ふ計りなし前途を苦慮して進行を止め滿潮の時至るを待つ

◎八月三日　午前一時俄然大なる響と共に汽船非常に傾斜して危險言辭に盡し難し曉に至りて非常汽笛を鳴らし救助船を呼べども更らに應ずるものなし時に便乘者第五師團の輸卒藤原春次郎氏吾れ此河を渡りて急を碇泊司令部に報じ來らんと直ちに上着を脱して河中に飛入り或は泳ぎ或は徒渉し遂に其の目的を達し端艇二隻を漕ぎ來りしかば予等約十五名是れに移り漸くにして小汽船長城丸に乘り移ることを得たり斯くて午前十一時安東縣に着す棧橋へ御林副官を始め多數の出迎人あり碇泊司令部にて休憩夫れより將校宿舍に充てたる支那人の家屋に入り齊藤司令官の訪問を受けたり晝餐後此地を距る半里餘の七道溝に至り九連城の戰に病死したる人々の墓に詣でたり此夜司令部内に於て齊藤司令官其他十三四名の將校と晩餐を共にし午後十時歸宿す

◎八月四日　午後八時より軍人倶樂部に於て慰問演説をなす聽者將校以下約六百名

◎八月五日　本日午後二時より軍人娯樂場に於て清國人の爲めに演説會を開らくもの四拾餘名水谷通譯の紹介の勞を執られたり

◎八月六日　軍政署司令部等を訪問

◎八月七日　午後三時より安東縣知事高欽幷に王化成の宅に赴き種々談話交換し六時歸宿す

◎八月八日　兵站病院に病死せる第六師團輜重輸卒森山榮藏氏の葬儀あり富樫眞喜子是れに列す、午後四時より劇場に於て居留民の爲め演説會を開らく來會者百五拾餘名鮫島副官紹介の勞を執らる

◎八月九日　午前知縣高欽來訪、夫れより七道溝鎭江山臨濟寺（僧南岳師は奥村刀自相識の人なり）を訪ひ豐饗を喫して午后六時歸宿す

◎八月十日　午前九時より九連城なる戰死者の墓に詣づ知縣高欽より輿幷に馬隊輿丁三拾餘名を差廻はして便利を與へられたり

◎八月十一日　本日休養

◎八月十二日　明日出帆の都合につき軍政署司令部等へ挨拶に行き出發の用意をなす

◎八月十三日　午后六時小蒸汽第三長柄丸に乘じ鴨緑江を下り龍巖浦にてハナアサ丸に乘替へ錨地多獅島に着せしは同十時なり此所にて本船第三琴平丸に乘り込みたり

◎八月十四日　朝鮮灣を航し大同江に入り鎭南海に着したるは東天漸く徵光を放つ頃なりき午前八時民政書記長小川長堅氏來船高橋司令官染谷領事同夫人郵便局長同夫人來船訪問を受く、夫れより各領事の案内にて上陸し碇泊幷に兵站の兩司令部に至り各婦人に面接して諸所遊覽し午后八時より本願寺に於て軍隊へ慰問演説をなし午后十時船に歸る

◎八月十五日　午前司令部竝に領事館へ挨拶に行き午后一時より尋常高等小學校に於て居留民の爲め開催の演說會に臨む來會者百五拾餘名領事紹介の勞を執らる閉會後一回撮影し小蒸汽にて本船琴平丸に歸り午后四時出帆す

◎八月十六日　午后四時仁川に着、是れより汽車にて京城に入る豫定なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎社　告◎

本會主唱者奥村五百子刀自義に滿洲軍慰問の爲め戰地に臨み親しく出征の將卒を慰問すると共に戰病沒者の幽魂を吊ふて歸る本誌の記者手島益雄氏亦た刀自に從つて渡淸し歸來筆を呵して日程四十餘日に渉る慰問の狀况并に彼地に於ける風俗の一般を草して一冊を編み題して

婦人の慰問使

と云ふ本發行所は刀自の此行を永く紀念せむが爲め今回是れを印刷に附し美麗なる裝釘を施し『愛國婦人』臨時增刊として有志の諸士に頒つことなせり希望者は別欄廣告を熟讀の上申込みありたし是れ實に國を愛し家を思ふの婦人に取りて無二の寶典也

愛國婦人發行所

戰報

◎講和成立　各新聞の傳ふる處によれば講和の條件は左の如し

一、北緯五十度以南の樺太領土を日本に割讓する事

二、償金要求の全部を拋棄し俘虜給與費として一億五千万圓を取る事

以上の條件を以て講和條約は成立せりと傳へらる此條約に付ては世間に幾多批評の存する處なるが人道の爲め婦人社會に於ては喜ばしき事なり

時事

◉檀林皇后の御陵　嵯峨天皇の御配に渉らせられし檀林皇后の御陵は今日まで如何にしても不明なりしが茲に京都嵯峨の里は大覺寺より東南八町程の處に俗に皇后の森と傳へられし小森あり父老の言に徵し或は古事を參酌すればする程この森の地が檀林皇后の御陵地ならずやと察せられたれば今回森林の持主たる中村喜三郎なる人より京都府知事へ献地の出願に及びたりと云ふ但しこの森林の所在地は京都府葛野郡嵯峨村大字上嵯峨なる小字御所内と稱する所なりとぞ

敎育界

◉家事專修女學校　麻布區三河臺町なる同校にては本科三年の外に手藝專修科及び別科を設け專修科は一ヶ年別科は六ヶ月を以て規則書中に記載しある手藝細目全部を修了せしめ併せて國語、漢文、倫理、家政、生花、點茶、割烹等を敎授する由

◉櫻井女塾の新學期　本郷區向ヶ岡彌生町なる櫻井女塾にては本月より新たに英國ロンドン出身エメレー、ツカコシ夫人及び其他英語に熟練の女敎師數名を招聘し斬新なる敎授法に依り英語、音樂、和漢文、裁縫等の新學期を開始する由

◉東洋女藝學校　神田區仲猿樂町なる東洋女藝學校にては本月より美術部、家政部、師範部の各學科を開始する由

◉產婆復習生募集　東京帝國大學附屬醫院に於て今回產婆復習生二十名を募集す志願者は九月二十日迄に出願すべし

講習界

◉獨逸語講習所　京橋區築地明石町三十三番地なる同所は獨逸婦人マルタ、ウエンデル孃の家塾なるが孃は伯林の人にして才學共に高く最も親切なる人なり晝夜共獨逸語を敎授す晝は朝七時より夕六時迄隨意にて一時間を選むべく一週五時間の月謝金十五圓、夜學料は七時—八時、八時—九時の二科あり主に會話を敎ふ一週五時間にて月謝は二圓五十錢なりと

◉體操遊戲唱歌講習會　麴町區飯田町二丁目河岸なる稚松小學校内に今回新たに設立されたる同會は小學女敎員の爲め本月第二日曜日より毎日曜午前(一)體操遊戲(二)唱歌(三)兒童取扱法の講習をなす

◉舞踏講習會　本所區元町なる東京體育俱樂部にては紳士淑女の爲め舞踏講習會を開始し目下會員の募集中なるが講習期間は六ヶ月とし男子部は毎日曜日女子部は毎土曜日の授業にて講習料は男子一圓女子五十錢なりと

活動界

◉單身渡韓の婦人　本年度女子大學國文科の卒業生田中友枝子は(二十)愛媛縣北宇和郡三浦村の人なるが去月二十四日單身朝鮮に向つて出發したり聞く所に依れば渡韓の上は京城に落着き同志有志婦人其他の贊助を得て女子日本語學校の創立に身を委ぬる筈なりと云ふ

◉關西女子と職業　大津、奈良地方にては縣立物產陳列場等にまで皆な女子の職員を使用するに至れりと云ふ女子の新職業の益々發展し行く誠に欣ぶべき事也

◉電話交換手と健康　近來醫師の經驗に依れば電話交換手には神經衰弱患者非常に多く中には發狂するに至るもの尠なからずと云へり

慈善界

◉佐世保婦人會　佐世保婦人會にては昨年十一月下士卒家族共勵會なるものを創設したるが畏くも　國母陛下より五百圓各宮妃殿下より二百七十五圓を下賜され程にて有志の寄附多く着々事業も進行せしが今回は更らに陸軍と合同し鎭守府の裏に三百九十坪の地面を買ひ一萬五千圓を投じて事業館を創設するとなりしが經費の不足を慮りて軍人家族救護會へも交渉中なるが事業館は工場、事務室、宿直、洗濯工場、幼兒保育所等に別つ筈

廣告

●實丹戰地に於て奇効

通信の廣告

(前畧)茲に今更貴舖御發賣之實丹に就て迂生より効能の事申上る迄も無之候得共過般士人二三の患者に與へて眼前に効顯を示し申候故御參考迄に申進候

偖目下小生の滯留仕り候部落は〇〇の東方〇〇〇の谿谷に有之隨分不潔極まり候部落に有之人口は六百名も可有之と存候然るに近來皇軍の滯陣と俱に人民の住處に乏しく一は〇〇〇と申す處に男女共に收容仕りて土人の巢窟と申してもよろしき位に雜沓を極め居り候况んや近來は天も炎暑の折柄迂生は日毎に衛生上の注意旁々巡回仕居候兩三日跡の事姓康と申す者の娘十四歲不熟の杏子を喰て腹痛吐せず瀉せず限疑手足冷え殆んど人事不省一日間打脈を少しく存する丈の重症に落入申候折柄小生其場に行き大分量かと存じ候へ共一錫の三分の一を鼻孔より吹きこませ別に「水に溶きて」手足の冷なる處や胸の邊りにぬりこませ申候處一時間程致して該女は苦悶を感じ來り大に吐し申候て忽ち人事を知り言語を交へ候樣に相成り實丹起死回生の貴名に背かぬ事支那人一同も驚入申候又五歲なる王と申す小兒鼻血止まらずして兩親てこずり居申候故右も實丹を水にとかして額や「チリケ」の邊にすりこませ申候處止血仕申候誠に貴舖の靈驗ある滿洲人の腦裡に銘肝仕候間御悦被成度先は不取敢御一報まで餘は後便匆々

乙巳七月十日　第二師團附

通譯官　子爵　山岡直記

守田寶丹翁貴下

●前記●●山岡子爵は有名なる故山岡鐵舟大居士の嗣主にして從軍以來しばしば信書を小生に賜はるところ眞に御懇情の淺からざる感銘に堪へざるなり謹みて茲に其御厚意を拜謝致候

旭陵　守田寶丹

(前畧)我々騎兵は勿論砲兵輜重兵の如きも馬なければ其任務を盡すこと能はず駐軍間にせよ戰鬪間を問はず騎兵は乘馬砲兵は乘輓馬。輜重兵は輓駄馬を使役して何千人を殺し得る彈藥方若しくは何萬人馬の生命を繋ぐ貴重なる糧食を運搬しつゝあることを思ひ且つ彈藥や糧食が戰場にあると缺乏するは如何に戰事に關するかを考ふれば吾々第一に愛するは馬なり壹度些少の傷なりとも其儘使役するときは數日を過ぎぬ中に服務する事能はざるに至り其任務を盡さゝるに至る之れ軍馬を使用する者の大なる誤りなり宜しく注意せざるべけんや

野生は貴店寶丹が馬體に鞍傷を起せし際に奇効あることを實驗せり此の鞍傷は騎兵のみならず砲兵の乘輓馬輜重の輓駄馬にも多く起る事あり其原因は炎熱に際し行動し馬體に汗を生ぜし時鞍毛綻開し若しくは鞍下毛布に皺あるか亦は塵埃の附着したるを其儘にして置き行動する時其部分を摩擦する爲めに發熱を生じ膨れて痛みを感ず是れ鞍傷なり是れを其儘にするときは終に化膿して甚しきに至りては四五十日を過ぎざれば元の體に恢復すること能はざるに至る然れども熱を生じ僅に膨れたるとき直ちに此寶丹の極少量を水若しくは湯に溶し膨れたる部分に一日二回位塗り附け置くときは僅か一二日にして全く冷熱し快復するに至る是れ貴店寶丹の効力顯著なる事を此處に感謝す

七月十四日　出征第三軍　森田只吉

守田治兵衛殿

以上の外猶御報知を辱ふせし分多數これあり候へ共取敢ず右二件を茲に掲載し其深厚なる御懇志を謹謝致し候且又出征各軍隊の諸君より類似藥これあるひは御需用に御不便なる地に御在陣のせつ軍事郵便爲換を以て本舖へ直接に屢々許多の御用命これあり候に付本舖は郵便税負擔の上其都度御郵送申上居候因て本舖調製の寶丹御購求に(戰地に於て)御不便なるせつは直ちに本舖へ御注文仰付られ度此段併せて謹告致候也

寶丹本舖　東京市下谷區池之端仲町二十七號所有地

十世　守田治兵衛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

募集短文

題「秋」

▲琴の音　大阪　富永　才子

今宵は秋の最中とて、月はまどかにすみ渡り、池の邊の白萩は玉をかざして咲みだれ、露みち渡る庭の面のいと心地よく覺ゆるまゝ、芝生を踏ておりたてば、凉しき風に吹きつれて調べ床しき琴の音の、何處よりかはもれそめぬ、樂は何ぞときゝつれば、

昨日まで早苗とりしがいつのまに稻葉そよぎて秋風のふく

あゝ懐かしき秋の曲、去歳の今宵は彼の君と共に樂しく奏てしを、あはれ其人今は此世にましまさず、そゞろ無常をかこつ時、空に一聲かりがねの、いとゞ哀をそへゆきぬ。

▲ふる郷　東京　四谷　保子

「月が故郷を思はせる」とは遠征軍人の歌ひたまひし言の葉、やから打そろひて暮してだに秋は思ひ出多かるを、明日は屍の上に照るかと夜毎眺むるますらをの心そもいかにぞや、命をかけし旅ならぬみやこの内の我身すら、思ひは千々に碎くなる、遠くはなれしふるさとは北山おろし身にしみて、淺茅が庭の蟲のこゑ、つゞりさせよとなくらんに、たらちねの袷衣はたれかぬふ。

▲秋の感　東京　浦　月子

雨に風に物悲しきは秋なり、水清く空晴れて爽氣身を襲ふも秋なり、草蟲機杼を弄し草花錦を成す、田の面の稻は黄金をしき菓實累々として戸々に滿つ、民の喜びの聲四方にあふれ、貫物は徹さずして終る、冷氣外に逼るといへども内暖なり、何をもて秋を悲しといひ淋しといはん、さはれ月の夜遠征の將士を思ふ時、袖にも露の置きまさりて、ともすれば庭前の蕭颯悲憤の聲ならざるかを疑はしむ。

▲極樂園　山梨　小尾玉代子

三度の倉膳にて畑よりえたる新鮮なる菓果の調理を味ひ、庭には手植の草花の盆裁をながめ、夜に入れば市にもとめずして居ながらに蟲の淸音をきゝ、月は俗界をはなれて閑庭をてらす、山家の秋一として快ならざるはなし、夕かほの花二ッ三ッ白く寂として名殘をとゞめし小川のほとりに水車のせはしげにめぐる、さては頭重げにたれて風になびける稻穗豐かにとりいれも近きに見ゆ、此の田園の秋の趣味、都の人は知らぬなるべし。

▲秋胡蝶　東京　濱田　直子

長閑なる春の朝、靜けき秋の夕べ、黄金の羽袖ふりかざして、花より花にあこがれつ、春花の雫の其下に淸く美しく生れ、秋の露の淋しさに靜に終るゝあゝ其間の如何に樂しさよ、妾常に汝の如き淸く美しき一生を羨み又深く汝を愛す、暮行秋のかなしさはいよゝ勝りぬ、妾、殘の花をとり集め、花輪造りてとむらひ遣らむ、やすけく眠れ秋の蝶々。

▲蟲の聲　群馬　伏島たき子

秋は悲し詫しなど人の云ふめれど、こがひする身は暇なき事いはん方なし、いつもの野邊に美しき花さまゞゞ咲きぬ、折りて給はれや姉樣、かざしてよ伯母樣と右左より幼き子らにせがまるれど、露ふみ分けん折もなし、からたち騒ぐ蠶の營にひきかへて、さすがに夜は靜なり、しばしの間と例のなつかしき書とりいだし、文机のほとり近う座をしむれば、鈴蟲のすがゞゞしう、こほろぎのあはれげなる、とりゞゞに聲さやかに聞ゆ、實に燈火親まるゝ候とはきのふ今日の事にやあらん。

▲秋の幸　三重　柄田　淸子

秋立つ風に散り初むる桐の木の間の月の影、人も問ひ來ぬ我庭の草の繁みの蟲の音も物思ひする此身には唯哀とのみ見聞きせられ、夜更け行くまにゝゝ遠近の砧の音もたえゞゞになり行く折柄、妻戀ふ鹿の聲にやあらむ山風にさそはれて聞ゆるなど、とりゞゞ哀を集めたる中にも、自らなる樂みのあるこそいと嬉しけれ、わざと結ばぬ籬ながらも、庭もせに八千草の咲き匂ひたるもやさしう、紅葉色づく初めより、眞盛りの梢の色、はては錦を散り敷く樣迄を心安くめでもし、家の近くに蕈狩りして樂むなど、都人の夢にだも思ひ浮べぬ嬉しさは、實に山住の秋の幸ならんかし。

▲撰者曰　今回は又々前回にも増して投稿の多かりしは吾等の深く嬉しく思ふ所なり東京の植村梅子同じく栗生政子、愛知の磯貝倉子、同山田靜子、山形の大谷菊江子、山梨の薑澤靜子、巖手の田咲子、埼玉の水野淑子、山口の杉靜子の君達が寄せられたるものは確かに佳作と認めたるも撰評の結果選外となりしは遺憾なりし

◉第十一回作歌募集

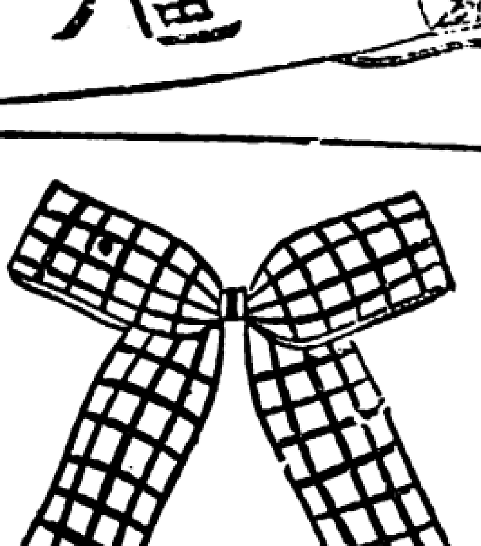
△歌題　月
△選者　某公爵夫人△作歌數一人一題三首以下△期限九月十九日限り△優等の作歌は本紙上に披露す可し

◉第四回短文募集

△題　松茸狩
△選者　編輯局同人△一行十八字詰十五行以下端書に認めたるものは採らず△期限　九月十九日限り△優等の作は本紙上に披露す可し

「愛國婦人」臨時增刊慰問號（八月十五日發行）
婦人の慰問使
奥村刀自の滿洲軍慰問を紀念として此書を發行す希望者は前金を添へ申込ありたし申込順により送本す可し
一部金拾五錢
會員に限り金拾錢
郵稅不要
東京市麴町區飯田町
愛國婦人會發行所

增補再版
愛國婦人會例規類集
一部金拾貳錢
本書は曩に本會第四回總會紀念號として發行せし處忽ちにして缺本となりたるにより今般更に增補訂正の上再版出來せしにつき希望者は速に申込ありたし
東京市麴町區飯田町
愛國婦人會發行所


ハイカラ向
第二回新着
格子リボン
一吋半巾
二吋巾
久敷品切の處漸く新着今回は別而意氣に優美に出來仕候
見本送料三十錢御返却は元價買戻申候
新形舶來東髮用品流行元祿模樣くし笄簪等種々取揃有之候
美術鼈甲 小間物商
神田須田町十番地（電本二〇七六番）
三井屋德次郎
神田東明館內支店
新橋博品館內支店

陸軍三等軍醫正 醫學士 中原貞衞先生著
總ふりがな附 圖廿一個入
看護人及看護婦用 按摩の栞
内容は最新の西洋按摩法にして著者の經驗により日本按摩法の取るべき所をも加味し特なれば目下戰傷病者の看護に從事せらるゝ方々は必ず一本を坐右に備へ王へ
●正價三十五錢●郵稅四錢●
發兌 東京市本鄉區龍岡町卅四番地 吐鳳堂書店

英國新輸入
無害新製
最優原料
皮膚艶美
クイーン
クイーン
香水
本舖 花陽堂
取次販賣は到る處の小間物店化粧品店にあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二八水は進歩せし化粧水の随一なり
効能は世間已に定評あり

花王石鹸本舗
東京馬喰町
長瀬富郎製品

中瓶 壹本拾五錢

米國醫學博士ジャス氏發明薬

歯薬之王 **一六散**

日本諸大醫實驗頌讃功能保証

歯の痛直に止る保証
歯の腐蝕崩碎を止る
歯の惡熱を去る
歯の動きを能く締る

價拾錢廿錢送料貳錢 各薬店に取次
毒にならず口の荒も共に治る香でもよし
東京木挽町九丁目八番地 木原山石堂薬房

月刊 **園藝之友**

軍國婦人の可必讀者、愛國心ある人は續々入會せられよ
入會希望者は郵券參錢を送れ規則及主意書を呈せん

定價毎冊郵税共金拾貳錢（但次號より拾參錢）郵券一割増

園藝は最上の健康法、健康は軍國婦人の最大義務の一也

第四號八月廿日發刊本號には珍種法育成 九月の花 朝顔の變化、野草圖解 盆栽瑣談、都會に於ける蔬菜栽培法 瓜の露菌病、及臺灣米清 各地の果樹花卉、農藝談、蓮の各種料理法 草苺ジャムの製法等あり 趣味津々 實益滿誌

東京本郷區兩門町五 日本園藝研究會

（ラクダ印）

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛ずべきスミレの香料を多量に含むが故に壹度使用せば其香氣身体は元より手拭タオル ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は馥郁としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す

○（定大形廿錢 假小形拾錢）（熱心勉強なる和洋小間物賣薬化粧品店にて必ず販賣せり）

近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意

東京本石町三丁目十八番地 芳香堂 **井上太兵衛**

●ねりおしろい定價大瓶廿錢小瓶十二錢 ●水おしろい定價大瓶廿五錢中瓶十五錢小瓶十二錢

これ白粉は歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素の新成體躰等を以て配劑しあるを以て御肌艶麗ならしめ芳馥馥郁として長時間保續するの特性あり

●第五回内國勸業博覽會褒賞及賞牌受領

定價（綠藍紅彩蝶地ひ錫詰六錢五厘 ボックス入參錢袋入壹錢）

弊舗製造の壽美花洗粉の義は方今歐米諸國に專ら賞發する香料及弊店新製の原料を用ひて製せしものなれば朝夕此洗粉を用ひ給へば漸々肌の色を美くして艶を出しきめをなめらかに常に御肌を清らかにす

製造本舖 東京市東兩國兩國橋際元町 **伊勢吉壽美禮堂謹製**

販賣處ハ全國到ル處小間物店化粧品店賣薬店洋物店其他各勸工場各劇場運動場等ニ有

募集作歌 題「露」

○ 東京 浦月子
秋の野の花の千草を吹く風に
みだれてにほふ露の白玉

○ 仝 岡田春子
見る人の心々に涙とも
玉ともならん草の上の露

○ 岩手 山口ます子
袖のみとおもひしものを咲きにほふ
花の上にも露ぞおきぬる

○ 山形 大谷菊江
ゆけばちるゆかずは外に道もなし
露の玉しく野べの細道

○ 福岡 湯川たき
吹きわたる風のまに／＼ほろ／＼と
花よりおつる露の白玉

○ 群馬 伏島たき子
夕月の影もさやかにやどりけり
おく露しげき庭の萩はら

○ 長野 金野やほゑ
咲出し秋のちぐさの花の上に
おきてぞにほふつゆの白玉

○ 福岡 村島常子
しこ草におく白露は日のもとの
國の光にやがて消ゆらん

○ 長野 高橋きよ子
ものみするたけをかひそむ高梁の
葉末にやどる露の白玉

○ 東京 北村雪子
玉さゝの葉末にたまる白露を
吹きこぼす風のうらめしき哉

▲正誤 前號披露作者中平松いと子を三重としたるは愛知の誤りにつき正す

◉陣中吟

陸軍歩兵曹長 鈴木熊若丸

陣中述懐
怖ろしとおもひし夢は昔しにて
戰はぬ日ぞ寂しかりける

戰場立秋
きゝなれし筒の音なくて黍畑に
秋立つかせのおどろかれぬる

月下哨兵
仇まもる野べの東は海つきて
のこる情も有明の月

大山元帥
唐土のはらをつきぬく大山に
烏拉兒の岑も低くこゑけり

東郷大將
我國の光りいよ／＼沖のしま
努めよとての君が示しに

滋養 茶愛

紳士淑女の常設衛生新菓（美麗鑵結）

効脾胃煎餅（かうひゐせんべい） 御進物用

良薬は口に苦く名物に味ひものなしとは世の俚言に候はんも抑も此の雙鹽効脾胃せんべいは石塚左玄先生が生理的理法に基き調製せられたるものにして單に食療強壮劑として之れ又無上の品なりと聊か名詮自稱と申しながら二十世紀的衛生新菓の魁にて消化も早く老幼男女御口に叶ひ朝な夕なの御茶受より御進物から御見供衆への御目ざまし御弱き方には事更御勸め申し度くそこが失れ口に甘くして療薬になり味ひ頗る宜敷候得ば御好評御引立の程奉希上候 敬具

東京市日本橋區元四日市町十番地
發賣元 **長谷川龜樂** 分店
電話本局一六五四番

登録商標 薔薇麝香入 無毒薄化粧 **水晶おしろい**

東京通塩町 大賣捌 大和屋

ろーと善

胃病良薬 **太田胃散**

拾壹版 **普通看病學**
ドクトル佐伯理一郎著（總ふりかな附）
正價金六拾八錢▲郵税金拾錢

袖珍 **戰時平時救急看護**
ドクトル佐伯理一郎譯（挿圖百卅七）
正價金參拾五錢▲郵税金貳錢

二版 **私宅看病法**
下平文柳著（總ふりかな附）
正價金五拾錢▲郵税六錢

拾版 **人體解剖生理**
●看病法修業用
下平文柳著
正價金五拾五錢 郵税六錢

發兌元 東京市本郷區龍岡町三十四 ◉吐鳳堂書店◉

衣服諸器物の保存に注意せらるゝ方は必ず日の出りうのうを御使あるべし

◉各茶店に無き時壹ダース以上は本舗へ御注文郵便にてよろしく無料遞送す

日乃出龍腦 商標

和洋服書畫等の虫よけ 濕氣を拂ひ衣類の着心をよくす

芳香馥郁

高尚優美芳香馥郁衣秋に薫る 定價壹個三錢五厘壹ダース三十八錢

東京本町四丁目（電本一五三四） 藥種問屋 **松本合資會社**

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

從四位淺田宗伯先生直傳　淺田飴

だんぜんに淺田飴

すきはらに空腹にめし

良藥にして口に甘し

定價　金五錢　金拾錢　金參拾錢　金貳拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す

本家　東京神田鍛冶町　大阪北久寶寺町　堀內伊太郎

帝都唯一受賞袴

小町印　學生袴

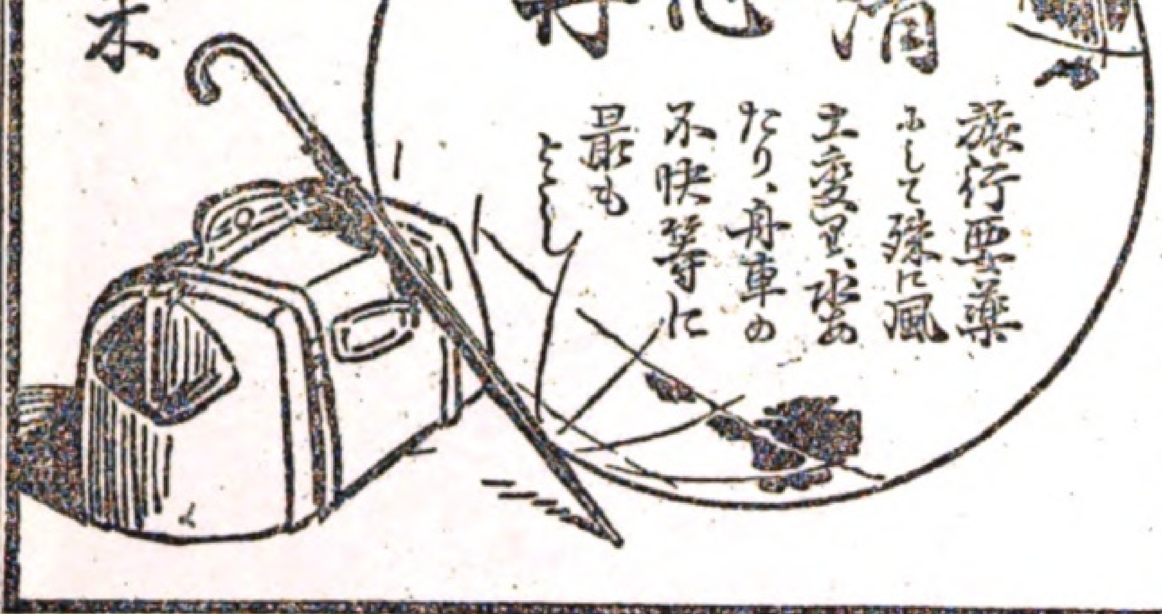
御注文ノ節ハ早速特參　電話浪花一八四一

小賣部　神田區表神保町　永井支店

清心丹

旅行要藥ふして殊に風土變更の際なり、舟車の不快等に最もよろし

本舖　東京　高木



一巴里新流行高等婦人帽子。並ニレース

一英國ビーハイ印毛糸並に玉スコッチ

一學理應用教育弄具各種

一洋花・リボン。流行ゴム櫛。香水石鹸白粉其他西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目　伊勢與　三枝小賣店　電話新橋三九二七

寫眞撮影　淺草公園　江崎

○銀側兩蓋之部　流行薄手形

價八圓半　瑞西石入向爪アンクル

價十圓半　同懷石卷上向アンクル

價十三圓半　同裏三枚懷石卷上向爪

價十四圓　米國中蓋付切天武向爪

價十七圓半　米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部　流行薄手形

價三十三圓　瑞西國六金側御婦人持

價六十九圓　瑞西大金側中形紳士持

價七十九圓　米國製大金中形紳士持

價九十五圓　瑞西18金側形18紳士持

價百十五圓　米國製18金形18紳士持

商品案內　無代進呈

東京市京橋區銀座一丁目　電話新橋（二三三一）

伊勢伊時計店

◎看護婦となれる女皇（下）

半夏生

グリーク王國は誠に女王ヲルガに對して尊敬を拂ふべき理由を有す、彼女が十六年にしてジョーヂ王に嫁せしより以來今日に至るまで、其夫君の臣民の病苦を去らんと欲してなせる個人的の困苦、莫大なる、金錢の消費、沈思、耐忍及び技術の實施等に就ては實に大なる効績を擧げたるものなりと。あらゆる希臘國の慈善事業はヲルガ女王の創意設立にかゝる、而して彼の大なる傳道病院（首府雅典に在り）は女王に特別の責任あり、又自ら監理しつゝあるものにして、七人の貴女より成れる施行委員の助力を受けつゝ、日々自ら視察に赴き、注意を加へ、考慮を廻らし、あらゆる方面を殘る隈なく監理せるものなり、女王の深切は啻に內國人に及べるのみならず、國內の外人の病苦に對しては非常の注意を加へつゝあり、斯る人々に對しては寂聊及び悲哀の感に打たるゝ事屢にして女王は絕へず露國より土塊を取り寄せ居れりこは本國露國を去りて不幸羈旅に黄泉に赴きたるものゝ棺上に撒せんが爲めなり殊に希土戰爭中（一八二七—一八三二年）は負傷者に對して出來得べき扶助の事業に從事したり現今其頃の寫眞に就て見るに女皇及希臘國大公爵夫人メリーの兩人は雅典第一救兵場の創立式場に於て群集に取かこまれたる有樣を示せり

ポルトガル國女王アメリーは實に卓越せる醫學博士にして又皇族中にては唯一の卓絕せる人物なりリスボン大學に學び其夫君の主任醫たり且つ寧ろ待醫に命令を下し己れの意見を採用せしめんが爲めに日々醫院に赴けりこれ自ら現今醫學社會に疑點となれる諸問題につき實地の知識を有するが故なり或る時一人の漁夫が船の轉覆せる爲め波濤の間にもがきて助を求めつゝありしを救はんとして水中を泳ぎたる等あり故に女王アメリーの人望よきは怪むに足らず（完）

◎祝捷樂隊用諸樂器

●五人組織一組金十二圓半以上金百圓迄

●七人組織一組金十八圓半以上二百圓迄

●九人組織一組金卅五圓以上三百卅圓迄

●大小太鼓及吹奏諸樂器各個ノ雛形定價

●表ハ郵券四錢封入御申越次第呈送ス

第五回博覽會一等賞牌　外內外各博覽會展覽會賞牌賞狀廿壹個受領

●風琴洋琴ヴァオリン●西洋諸樂器●博物生理學標本模型●物產標本模型品●運動體操諸器械●物理化學機械●身體檢查器械●計數器●校具類

直輸出製造販賣元　東京市神田區千代田町二番地（電話本局二千十三番）　同文館樂器校具店

醫科大學教授醫學博士　大澤謙二君閲　大日本私立衛生會編輯主任　關以雄君編

最近學說　衛生講話材料

洋裝本綴ポツケト入　正價金五十錢　郵税四錢

內外諸大家の學說を收攬し衛生講話をなさんとする人々の材料に供し將公衆家庭に於ける衛生上の參考に資せんが爲編述せるもの衛生學說の辭典なり國民須讀の良書なり

○學校衛生講話材料　價廿五錢　郵税二錢

○最近肺結核療法　北里博士閲　柴山醫學士　價八十錢　郵税六錢

○通俗實習急救法　竹中醫學士　關以雄合著　定價卅錢　郵税四錢

○按摩鍼灸學　盲啞學校　奥村三策著　壹圓卅錢　郵税十錢

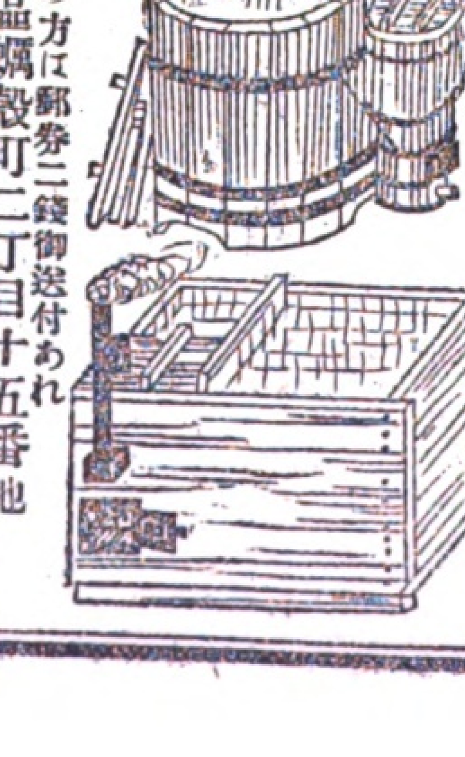
○實用繃帶學　小池軍醫著　挿圖七十除　五十五錢　郵税四錢

發行所　神田鍛冶町　電本九四九　誠之堂書店

特許　第五回博覽會賜賞褒賞

◎湯屋溫泉用釜◎料理店理髮店用湯風呂◎豆腐箱

同機罐式据風呂



◎定價表御入用の方は郵券二錢御送付あれ

製造　日本橋區蠣殼町二丁目十五番地　名和商店

販賣元　神田區和泉橋通松永町十八番地　名和支店　電話浪花千百七十七番

登録商標　羽おり紐　帶しめ　佐竹組糸舖

市內ハ御用命次第參上可仕候　定價表ハ御申越次第呈送仕候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各女學校御用
美術造花材料各種
東京日本橋區横山町一ノ十六
天野卯兵衛商店
（電話特浪花一六四三番）
營業案内は往復葉書にて御申込次第送呈仕り候

更に改善を加へたる廿世紀局處防寒溫躰具

K. U. Gurtel

ドクトル木村順吉先生
藥劑師歌橋又三郎先生　合議創製

攝生家必携　福壽帶　一名くすりおび

腹卷形、各種其他腹用、腰用、關節用、各種咽喉用帶、

定價　一號金五拾錢、二號金七拾五錢、三號金九拾錢、四號金一圓五拾錢、五號金貳圓

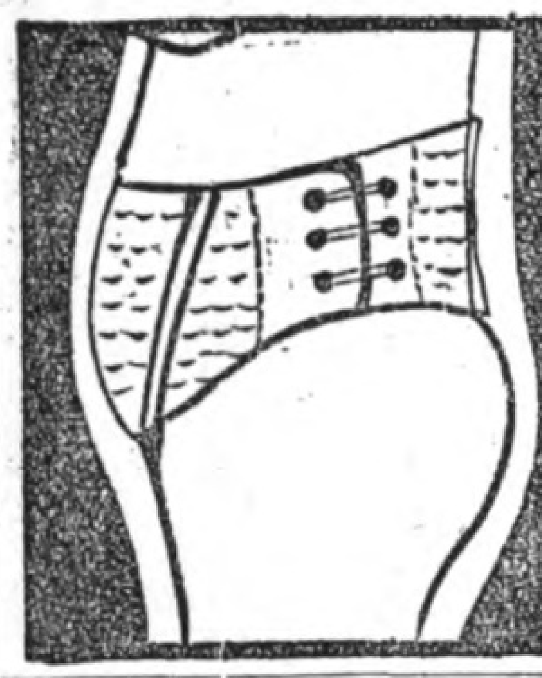
出征軍人旅行家には虫よけの效を有する故に尤も適當なり

圭友商會發行
發賣元　東京日本橋駿河町　輔仁堂
各藥店等に販賣す

腹掛形

醫學博士長與先生御說胃酸過多症には至極よろしかるべし

諸病の基因は冷込感冒より發すること頗る多し四季變移氣候の劇變冷症の人内臟諸症患ひある人姙婦、産婦小便ちかき人速に用ひて健康を全ふし給へ



◎世界のしんぶん

◎コルセット　は此程ルーマニヤ國文部大臣によりて禁ぜられ、各私立女學校長に通牒せられたり、全國にては餘程以前公立女學校生徒の仝衣を用ゆる事を禁じありたりといふ

◎各國議會　の名前を調べるのも面白き事ならん、先づ米國のは「コングレッス」といひ、英國のを「パーリメント」といひ、佛國にては「アッセンブリー」、獨逸にては「ライクスタハ」、「オランダ國には「ステーツ、ゼネラル」、「スペインにては「コルツ」、ギリシヤには「ブール」、「デンマークにては「ランドシング」と呼ぶとぞ

◎寵愛の犬醫者　米國ニューヨークには大に流行の犬醫者あり、一度往診すれば十弗を得るといふ、此程或貴女遠方より犬醫者を招きて己れの愛犬の病の爲めに一週間滞在せしめたるに、毎日の給料百弗なりしといふ、貴女は己れの犬の爲めに寶石を鏤めたる首輪を買ひ、飾に用ひられたる玉は一個毎に數百弗の價ありしといふ、又一貴女は王宮を模造せる犬小屋を作り、毎朝犬の箱を出る前には必ず沐浴させ、櫛を以て梳き又香水をふりかくるとぞ

◎幼年の大將　世界中最若き將官はペルシヤの前國王の甥なる人なるべし、仝人は未だ十四歳にならざる小童なるに、早く既に陸軍大將なりといふ

◎ハーモニカ　此頃日本にも流行するハーモニカと稱する小樂器は、最も北米國に賣行多しといふ、此の簡單なる樂器製造處の大なるもの獨逸國にあり、其工場は十五の分工場を有し、職工二千人を使用すといふ、何にても商業となれば馬鹿にならぬものにこそ

◎面白き計算　英國の流通金貨の毎年人の手に渡りて磨り耗る高は非常なるものにて、是迄に失はれたるもの六百萬圓に及び、毎年五拾萬圓づゝは此の磨耗の爲めになくなるといふ

◎眼力ある人民　北極のエスキモー人は白雪の上にある白狐を遠方より見分くる事出來、アフリカの砂漠に住むアラビヤ人は常人の見分くるを得ざる物を砂漠中十哩（四里許）離れたる所より見付くる事を得、又文明人中にてはノウルエイ人は眼力確かなりといふ、故に廣々としたる處に住むものは眼力強く幼少より書籍に親み、薄暗き室にありて勉強せるものには近眼多しといふ

◎面白き命名法　印度の小兒は出産後十二日目に母親より命名せらる、然れども其名若し男親の氣に入らざる時は他の名をかき、前の名と共に並べ置き、其上に一つづゝランプを置くに、光りの強く輝りたる方の名に決するなりとぞ

◎女子の郵便吏員　の最も多きは獨逸にして二十四萬二千人、次は北米合衆國の二十三萬九千人、第三番は英國にして十八萬四千人なり、他國は比較にならぬ程少數なり、即ち佛國は八萬一千人、オーストリヤ五萬九千人、印度は六萬人、ロシヤは六萬人を使用せりといふ、兎に角多少其婦人を使用せぬ國はなしといふ

◎奇妙な雜誌　にて他に類なきものはギリシヤ雅典（アテン）府に發行せらるゝものなりといふ、紙面は何處も皆詩にてかゝれ、廣告に至る迄全く詩なりといふ

◎割のよき職業　ニューヨーク市にては煉瓦積職工は、此程賃錢を増加せられ、一時間一圓四十九錢を得つゝありといふ、最も忙敷時には一週間に百二十圓の賃錢を得る事ありとぞ

○老博士　一學生ありオランダ國ウトレヒト大學に在りて學ぶ事三十五年目にて、遂に此程醫學博士の稱を得たりと云ふ、眞に忍耐の人と云ふべし

花王石鹸

品質善良衛生ト經濟ニ適ス

米國聖路易萬國大博覧會名譽銀牌受領

本鋪東京長瀬富郎　關西代理店大阪大崎組商會

牛ゑり帶揚類　元祿模樣　嶄新柄

○千代田祝女（ちよだじめ）帶止○元祿市松友染絞り帶止
○染模樣絞り形帶片側地○兵兒帶○け出し
○尾花ショール○レースショール○帛紗地
○受賞まげ入ゑり治形すゝめ形御小賣
○高等洗粉チエリー顏肌美白　發賣元

新橋竹川町二十二番地　電話新橋二〇二七　本店　ゑり治
神田表神保町壹番地　電話本局九五二　支店　ゑり治
新橋際帝國博品館内階下　ゑり治出張店

編輯主任文學士下田次郎氏
女子教育　二卷五號　九月一日發行　定價金拾五錢
我が國婦人雜誌中最も程度高く讀みごたへあるもの
發行所　東京神田區錦町一丁目十二番地　明治書院

醫院案内（順ぐりの事）

白木耳鼻咽喉科院
淺草區（厩橋通リ）北三筋町五十九番地
診察時間　午後三時ヨリ六時迄

内科特に胃腸病診療
體格檢查運動療法
院長ドクトル川瀬元九郎　川瀬醫院
麹町區隼町二十八番地　電話番町八百貳拾貳番

婦人科産科榊病院
院長醫學博士榊順次郎　毎日午前診察
副院長醫學士久保徳太郎　毎日夕刻診察
東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

犬猫診察
病苦に悩む可憐なる無告の諸動物を治療す
麹町區飯田町五丁目二十六番地（國學院横通り）
診察午前　本院　入江家畜病院
本郷區湯島新花町九十九番地（切通公番より南半町）
診察午後　分院　本郷家畜病院

歯科治療　毎日午前八時ヨリ午後五時迄
横濱出張　毎月曜日横濱市高島町十八番船橋方
京橋區南金六町一一番
名倉歯科醫院　電話新二二六三

院長醫學士鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察　午後往診
京橋區鎗屋町十一番地　電話新橋千七百四十六番

水原産科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百〇〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○○本院には私立産婆學校の設あり

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局（三、三〇〇番 四一番 （特）三七番 一〇二番）
一定期預金　年五分
一當座預金　日步七厘
一特別當座預金　日步一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年六分
當座預金 百圓に付日步 壹錢
特別當座預金 同 日步 壹錢參厘

資本金八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋 一三〇〇番 一五三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日步七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

米國セントルイス萬國大博覽會銀牌受領
陸海軍御用

象印歯磨は品質にして衛生上及び歯牙に殊効あるの故を以て陸海軍の御用品たる事既に江湖多數愛顧者の熟知せらるゝ所なりと雖ども今回の事局に際しては出征軍士の爲めに恤兵部の御買上品に選定せられ益々御用命を蒙るに至りしは本品の最も光榮名譽とする所なり
關西代理店 大坂 藤森源之助

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
◉品質佳良の肉類廉價に販賣候
◉配達は迅速に且つ正確に致候
◉滋養と風味の西洋料理調製候
◉西洋料理出前は格別相働き候
◉米店は精撰の白米廉價販賣候
◉御注文は電話又は葉書て願候
小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二二七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

新聞の新聞

◎講和と輿論

◉時事新報　斯くまでの大讓歩を以て局を結ぶとは何人も思ひ掛けざりし處である戰爭には充分勝ちながら一錢も賠償を得ず實力を以て占領したる土地さへも返還するに至りては幾多犧牲を以て得たる戰勝の効果は何れに見るてあるか永遠に平和を復立するの趣旨は何れに見るべきてあるか如此平和は國民は決て希望せなかつたのてある而し議定せられた以上は仕方がない唯殘念千萬と云ふて涙を飮むの外ない扨て此後の處置について差當り急要なる一事は勳功調査の事てある我輩の切に望む處は死傷者を先にして生存者を後にすること是れてある戰死者負傷者の救恤は償金の有無に拘はらず國家百年の計の爲に大に之を厚うする事を切に望む

◉國民新聞　講和の利害如何を知らんとせば先以て戰爭を始めたる目的に溯つて之を繹ねばならぬが要するに其目的は滿洲の撤兵韓國の保護權の獲得にあつたのてある然るに今や平和條約により此目的の全部を遂したのみならず多くの副産物をも得た既に其目的を遂した以上は今日の平和は大に祝せなくてはならぬ世には樺太全部を取らず償金を得ざるを以て戰爭の結果を無にせりと云ふものあるが是れは畢竟赫々たる戰功より幻生したる空想に過ぎずして我が思ふ儘にならぬとて屈辱と云ふ事はない且つ償金の爲に開戰したのではないから償金を得ざるとて戰爭繼續す可き理由にならない況んや戰ひを繼續した以上ても償金を必ず得るとは限られぬ此度の講和には批評もあろふが宣戰の目的を遂した點に於て滿足せればならぬ

◉毎日新聞　露國が敗國の位置を自認せずして地を割かず一金を拂はず傲岸日本の要求を破壞せんとするに對し我全權が袂を拂て起たず其鼻息を窺ふが如き態度あるを見て國民は大に失望せしに其後の經過愈々非にして遂に償金の全部を拋棄するに至つた元來力を背に負はざる外交は常に必ず屈するものである我れは始より和を期して談判せり故に事此に至つたのである和約の報に接し憤悲の念失望の嘆は全市に滿ち到る處和議を迎ふるの樣子なく恰も一大戰敗に接したるが如き是れ實に國民精神上の大打擊てある嗚呼十有八ヶ月海陸軍人の努力十萬死傷の犧牲は外交半月の失敗により一空に歸せり戰傷の光榮は樽爼の屈辱と化し了れり此反應は沈欝して國民の憂憤悲傷となり反撥して志士の慷慨激越となり内治の安寧恐くは動搖すべし

◉萬朝報　割地と償金とは初より講和條件の骨子とせられたる所謂し此骨子の上に於て讓步することなくば講和は名あつて實なきものなり然るに我が當局者は戰勝者の權利を實行する事なく相手の峻拒するに遇ひ退讓せり是れ眞に開戰の目的を沒却し戰勝の効果を喪失し延きて帝國の面目と將來の安固とを傷害するの甚だしきものである此度の講和は日清戰後の終局よりも却つて卑屈醜辱にして眞に千古の大屈辱と云ふ可し此條約は調印を終へたるも批准交換には其空間あり從來の例によるも批准を拒絶せし事尠なからず我國民は相應呼して起ち此屈辱を雪ぐる途を盡す可きなり

◎報知新聞　戰勝國の當局者は戰敗國の命令に從ひて萬古不磨の大屈辱を以て振古絶無の大勝を沒却し去りたり遼東還付の耻辱よりも倘幾層倍の屈辱を重ねたるものである事既に此に到る千言悔るも益なし只善後の一策として批准交換を拒絶するの一途あるのみてある調印後の拒絶は信を萬國に保つの途てはないが國家の危急には替へられず志を抱くの徒は一擧に奮起して當局の罪を糺し此權能を行使す可きてある

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
小賣部
本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店 電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

正札附陳列場
西洋小間物
帽子各種
婦人用小間物
中久商店
東髮用具
内外化粧品
玩具文具
東京神田小川町通り
裏神保町一番地

芝區新堀芝その橋
太田眼療院
眼科一般並に左の術は本院の特技也
いれめ うごき自由 あきとじ自在
◉白き目ぼし染法は一見如正眼
◉説明書は郵券貳錢を要す

本院は種々の難病に對し丁寧なる診察と病人の相とを見て全治の見込あれば獨得の新療法を施します特に婦人方の腦脊髓神經病等に對しては催眠術或は無催眠術を施し非常の効顯があります
性相的應用
精神的治療 内外科一般
◉東京芝愛宕町一ノ一巴學校側
森山醫院
（電話新橋四〇四五）

◉耳鼻咽喉科診療
淺草區向柳原壹丁目貳番地（左衛門橋通横町）
中村醫院

るゐれき 切らずになをす
◉心臟病 ◉脚氣 殊に辨膜病轉地不必要
◉診察 ◉午前
神田三崎町 新三崎橋前
千葉内科院

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
◉電話下谷七一八番

東京神田錦町參丁目電本七一五
山口眼科醫院
診察午前午後 入院隨時
院長 醫學士 山口秀高

東京神田區美土代町三丁目十七番地
内科一般
午前宅診 午後往診
板垣亭
電話本局貳千九百七十番

▲小兒 學校生徒 診察種痘 毎日午前
東京内幸町一ノ三 三島醫院長
醫學博士 三島通良
電話新橋四七四

◉婦人科 午前宅診
◉小兒科專門 午後往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫鷲山彌生

産科婦人科專門
繁次歸朝後於本院診療に從事す
ドクトル 樋口
各科 診察從前の通
芝愛宕 東京病院
電新二六四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十八年九月五日發行(毎月五日二十日二回)

洗用ワッセル

◉此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◉用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳号)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た様になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳号入 金拾五錢　六号入 金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉ワッセル

◉此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價　最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
東京市京橋區三十間堀三丁目
三友商會　電話新橋千七百十二番

◎婦人圖書閲覧所　毎日午前九時ヨリ午后四時迄
東京麹町區　牛ヶ淵公園内

ムスク香水

芳香の永く保つ點に於て高評なる

〔芳香無比〕

○夏季の贈答品として婦人の最も嬉ばるゝ佳品なり
○有名なる賣藥小間物化粧品店にあり

大瓶一圓　中瓶六十五錢　小瓶二十五錢

(中瓶全景)　(小瓶全景)

東京日本橋區本石町四丁目
松澤常吉香水部發賣

東郷花　其他袋花束 花簪盛籠製造
本郷三丁目三十一番地
東郷造花店

富貴竈

特許 輕便料理ストーブ　一名改良テンピ
薪炭兩用　專賣特許
洋食器具一式
アルミニューム器具
商品目錄御一報次第進呈す

和洋割烹兼用
輕便にて完全に料理ストーブの効用を爲す、和料理に用ひ至極便利にして頗る妙なり
定價小四圓貳拾錢 大五圓八十錢

阿部彦四郎商店　淺草茅町橋際電話下谷一九二三番

教育寓話 我子の美徳

學習院教授 大村仁太郎先生編述

(大好評六版發賣)

這へば立て、立ば歩めとの親心は誰しも同じことで、良き妻迎へ良き聟選びて、行く末榮えよかしと願ふのでございますが、芳ばしい栴檀は二葉の時からと申します、子供の時の教育を誤つてはなりません。◎この書物は、曩に「我子の惡徳」を編述されました大村教授が、その反對に美徳の養成法を知らしめんために著はされたものです、繁雄といふ醇朴な農夫々婦がその子の繁雄の生れ落つるから、結婚するまでを採りました家庭教育の方法を順序立て、而も一篇の小説のやうに面白く平易に書いてあります。既に「我子の惡徳」を御讀みになつたお方は、必ずまたこの書を熟讀して、教育の表面と裏面とをお悟りにならねばなりませぬ。

和裝全壹册　定價金七十錢　郵税金八錢

日本の家庭

九月十日發行　二卷一號　要目

▲花よめ
▲住めば都
▲あはれ子供なき家庭
▲小兒室の設備……文學士
▲よき母……高等女子實修學校長
▲繼母と繼子……學習院教授
▲子供の改良服
▲海の教訓……女子大學講師
▲内氣で人嫌ひする子供
▲家政實話
▲習ふより慣れる

記者(口繪)　三輪田眞佐子　松本孝次郎　山脇房子　大村仁太郎　星つね子　三宅花圃　沼田笠峯　塚本はま子　せゝらぎ

▲女中さんの心得
▲大人の喫烟と子供
▲やかましい爺さん
▲小説牽牛花……女子大學講師
▲和歌
▲衛生雜感
▲子供と小言
▲子供の睡眠
▲料理の切形
▲料理法
▲新刊紹介

記者　薬山居士　かさみね　幡幽泉　三宅花圃選　中村愛子　松のや　記者　石井泰次郎　ゆふつき　記者

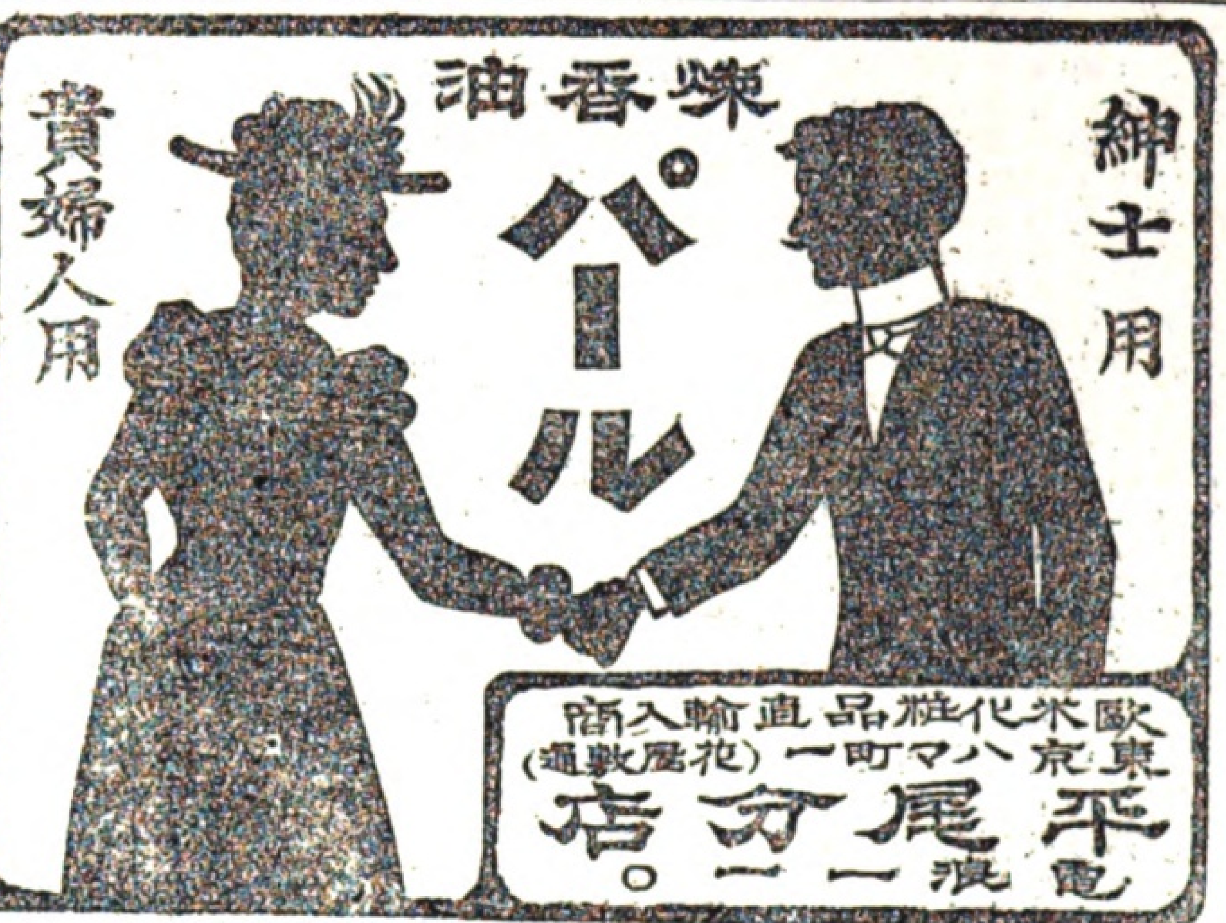
一册八錢郵税一錢　六册五十錢

發兌　東京神田 同文館・大賣捌 東京 大阪 早稻田 備後町 同 寶文館 同文館支店

手洗粉

定價一袋五錢

煉香油 パール



貴婦人用　紳士用

歐米化粧品直輸入商
東京八丁堀一町(花屋敷通)
平尾分店　電話浪花一一〇

家庭小説 母の心

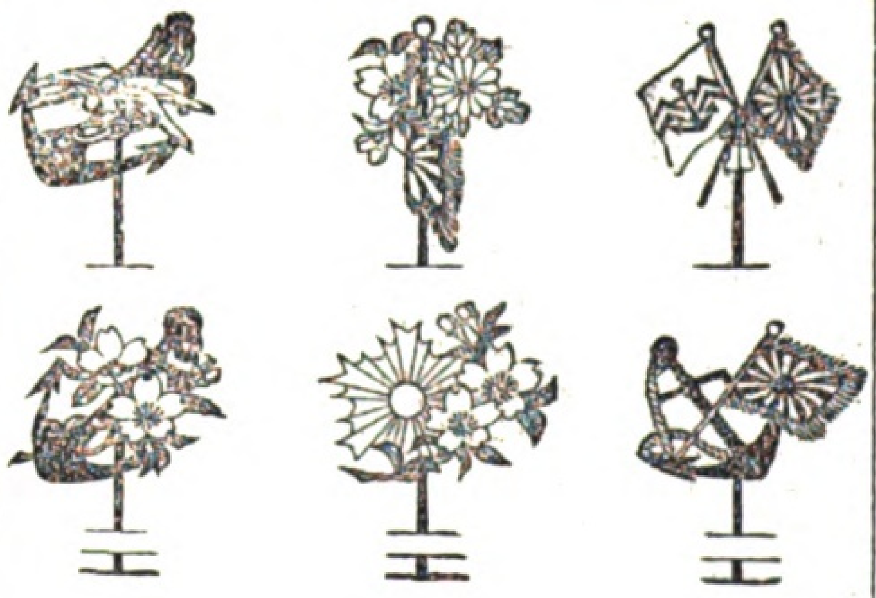
柳川春葉著　鏑木清方畫

母の心は新舊思想の衝突、繼母子の關係、兄弟の愛を主題とし、中に涙あり、慰藉あり、而して憐むべき主人公の運命は別に大なる教訓を讀者に與へむとす。是家庭に於ける最良の讀物にあらずや。著者は即ち柳川春葉氏也

▲實價六拾錢郵税八錢▼

東京日本橋 春陽堂

戰勝紀念ピン



金銀の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちは各その胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價　純銀製一個金三十五錢以上　餘は御好み次第迅速調製可仕候

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮内省御用達　玉寶堂
東京市下谷區池の端仲町
電話下谷 一二四四番 特九六三番

◎特約販賣店
◎東京堂　神田區表神保町三番地
◎東海堂　京橋區銀座四丁目

愛國婦人廣告取扱
弘報堂　神田千代田町
博報堂　京橋區南大工町
日本橋區入官町　日本橋區上槇町　日本橋區箱崎町
廣告社　萬年社　栗原九助
京橋區宗十郎町　京橋區日吉町　同區堀左衛門町
正路喜社　帝國通信社　京華社　支店

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 愛國婦人會内

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第八十六號附錄

IMPERIAL LIBRARY

明治三十八年九月五日發行（每月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

評議員
公爵夫人　二條洽子

福岡縣幹事
松本磯榮

山口縣幹事
男爵夫人　楫取美和子

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社　秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN